

令和2年7月臨時会会議録

令和2年7月30日 木曜日 午前10時00分開会

平 進 介 議長 内 谷 邦 彦 副議長

出席議員（16名）

1番	鈴木	一則	議員	2番	勝見	英一朗	議員
3番	渡部	正之	議員	4番	鈴木	裕	議員
5番	竹田	陽一	議員	6番	金子	豊美	議員
7番	浅野	敏明	議員	8番	内谷	邦彦	議員
9番	渡部	秀樹	議員	10番	鈴木	富美子	議員
11番	赤間	泰広	議員	12番	梅津	善之	議員
13番	小関	秀一	議員	14番	今泉	春江	議員
15番	蒲生	光男	議員	16番	平	進介	議員

欠席議員（0名）

説明のため出席した者

内谷重治	市長	遠藤健司	副市長
齋藤環樹	統括監	竹田利弘	総務参事 兼地方創生参事兼総合政策課長
金子剛	厚生参事兼市民課長	鈴木嗣郎	会計管理者兼財政課長兼会計課長
近藤智規	総務課長	新野弘明	地域づくり推進課長
小林克人	健康課長	梅津義徳	福祉あんしん課長
加藤潤子	子育て推進課長	土屋正人	教育長
青木邦博	技監兼建設参事兼公共施設整備課長	藁谷尊	産業戦略監兼産業参事
小関浩幸	教育参事	沼澤孝典	農林課長併農業委員会事務局長
赤間茂樹	商工観光課長	佐々木勝彦	産業活力推進課長
目黒孝博	学校教育課長	佐藤久	文化生涯学習課長
菅秀一	生涯スポーツ課長		

事務局職員出席者

中田浩之	議会事務局長	山口和則	議事主幹兼議会事務局補佐兼庶務係長
------	--------	------	-------------------

議 事 日 程

令和2年7月30日 木曜日 午前10時00分開会

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 議案第76号 長井市災害・経営安定対策資金利子補給基金条例の設定について
(質疑、討論、表決)
- 日程第 4 議案第77号 長井市中小企業緊急災害対策利子補給基金条例の設定について
(〃)
- 日程第 5 議案第78号 長井市信用保証協会保証料補給基金条例の設定について
(〃)
- 日程第 6 議案第79号 令和2年度長井市一般会計補正予算第5号 (〃)

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

開 会

○平 進介議長 おはようございます。
ただいまから令和2年7月長井市議会臨時会
を開会いたします。

開 議

○平 進介議長 これから本日の会議を開きます。
本日の会議に欠席の通告議員は、ございませ
ん。
よって、ただいまの出席議員は定足数に達し
ております。
なお、山形新聞社記者から、パソコン、カメ
ラ、録音機の使用について申請があり、許可い
たしましたので、ご報告いたします。
本日の会議は、配付しております議事日程を
もって進めます。
なお、この日程につきましては、先ほど開催
されました議会運営委員会にお諮りし、内定を
見ておりますので、ご了承をお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○平 進介議長 日程第1、会議録署名議員の指
名であります。会議規則第81条の規定により、
ご指名いたします。
4番 鈴木 裕 議員
5番 竹田 陽一 議員
6番 金子 豊美 議員
以上、3名の方をお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○平 進介議長 次に、日程第2、会期の決定で
あります。
お諮りいたします。
本臨時会の会期は、本日1日といたしたいと
思いますが、これにご異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
○平 進介議長 ご異議なしと認めます。
よって、そのように決定いたしました。

委員会付託の省略について

○平 進介議長 お諮りいたします。これから上
程いたします議案は、委員会付託を省略し、全
員でご審議願いたいと思いますが、これにご異
議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)
○平 進介議長 ご異議なしと認めます。
よって、そのように決定いたしました。

日程第3 議案第76号 長井市災 害・経営安定対策資金利子補給基金 条例の設定について外3件

○平 進介議長 それでは、日程第3、議案第76
号 長井市災害・経営安定対策資金利子補給基
金条例の設定についてから日程第6、議案第79
号 令和2年度長井市一般会計補正予算第5号
までの4件を一括議題といたします。
提案者の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○内谷重治市長 おはようございます。

議案第76号 長井市災害・経営安定対策資金利子補給基金条例の設定についてご説明申し上げます。

本案は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響により経営の維持安定が困難な農林漁業者を支援するための利子補給の財源とする基金を設置いたしたく、ご提案申し上げますのでございます。

次に、議案第77号 長井市中小企業緊急災害対策利子補給基金条例の設定についてご説明申し上げます。

本案は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響により経営に支障を来している中小企業者を支援するための利子補給の財源とする基金を設置いたしたく、ご提案申し上げますのでございます。

議案第78号 長井市信用保証協会保証料補給基金条例の設定についてご説明申し上げます。

本案は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響により経営に支障を来している中小企業者を支援するための保証料補給の財源とする基金を設置いたしたく、ご提案申し上げますのでございます。

続きまして、議案第79号 令和2年度長井市一般会計補正予算第5号についてご説明申し上げます。

第1条、歳入歳出予算の補正につきましては、予算の総額に5億5,175万7,000円を追加いたしまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ242億9,579万8,000円といたすものでございます。また、第2条、債務負担行為の補正につきましては、第2表のとおり、追加いたすものでござい

ます。

このたびの補正は、歳出におきまして、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用する単独事業費及び今後活用が見込まれる補助事業費を措置するものでございます。これらの補正の財源となる歳入につきましては、国庫補助金、県補助金、基金繰入金等を見込んでおります。

以上、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○平 進介議長 提案者の説明が終わりました。

なお、申合せにより、委員会付託を省略して全員による審議の場合、当日提案議案の質疑につきましては、一問一答の方式により行うこととされております。質疑の時間は1人当たり答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、これから1件ごとに質疑、討論、採決を行います。

まず、日程第3、議案第76号 長井市災害・経営安定対策資金利子補給基金条例の設定についての1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第76号について討論を行います。ご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 ご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第76号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○平 進介議長 起立全員であります。

よって、議案第76号は、原案のとおり決定いたしました。

次に、日程第4、議案第77号 長井市中小企

業緊急災害対策利子補給基金条例の設定についての1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第77号について討論を行います。ご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 ご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第77号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○平 進介議長 起立全員であります。

よって、議案第77号は、原案のとおり決定いたしました。

次に、日程第5、議案第78号 長井市信用保証協会保証料補給基金条例の設定についての1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、議案第78号について討論を行います。ご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 ご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第78号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立全員)

○平 進介議長 起立全員であります。

よって、議案第78号は、原案のとおり決定いたしました。

次に、日程第6、議案第79号 令和2年度長井市一般会計補正予算第5号の1件について質疑を行います。ご質疑ございませんか。

7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 おはようございます。

このたびの補正予算に際しまして、ご質問をしたいと思います。

まず、予算全体についてご質問したいと思います。

このたびの一般会計補正予算第5号については、国の2次補正予算成立を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金として、事業継続や雇用維持等への対応を後押しするとともに、新しい生活様式への対応を図る観点から、交付金を拡充されたものです。交付対象事業については、新型コロナウイルス感染拡大の防止及び感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援を通じた地方創生に資する事業が対象とされています。また、実施計画策定に当たっては、1、感染拡大の防止、2、雇用の維持と事業の継続、3、経済活動の回復、4、強靱な経済構造の構築を柱として、それぞれの事業を計画されたものと思います。

このたびの補正予算編成に当たって留意した点と新しい生活様式への対応分としての市の予算について、総務参事に伺います。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 おはようございます。

浅野議員のご質問にお答えいたします。

留意した点でございますが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に係りますいわゆる、第1次補正と同じく、感染拡大の防止及び感染拡大の影響を受けている地域経済や市民生活の支援を目的とする事業を部門毎に編成いたしました。また、新たなことでございますが、県との連携事業でございます利子補給事業、もしくは信用保証料補助事業等の基金への積立てについても国で5年間分だけ認められておりますので、それについても補正として計上いたしましたものでございます。

なお、新しい生活様式への対応につきまして

は、国で示しております地方創生臨時交付金活用事業例などを踏まえて編成いたしましたものでございます。国は、新しい生活様式を踏まえた各地方自治体の政策分野に関連する取組を地域未来構想20として例示を挙げております。その地域未来構想の具体的な事例といたしましては、社会的な環境の整備として、施設の空調換気設備の整備、濃厚接触者追跡アプリの導入支援及び行政手続のスマート化や行政事務のデジタル化の推進事業等、新たな暮らしのスタイルの確立として、学校等へのパソコンやタブレット端末等の導入支援事業及びテレワークの導入事業等、新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進として、地域の飲食店等を応援するためのプレミアム商品券の発行支援事業等が示されているものでございました。

それを踏まえまして、長井市の新しい生活様式への対応に係るこのたびの第5号補正といたしましては、国から例示がありました社会的な環境の整備事業を踏まえまして、いわゆるコミュニティセンターへ空調設備を設置するコミュニティセンター管理運営事業、大規模改修事業等600万円と、新市庁舎のソーシャルディスタンス確保可能な1人がけソファの設置や非対面型レイアウトが可能なデスクを整備する新型コロナウイルス感染症対応什器整備事業等6,388万2,000円、市内4か所の児童センターと3か所の学童クラブに網戸を設置する児童センター網戸購入事業139万1,000円及び飲食店等に限らず、市内店舗が亚克力板の設置や換気装置の設置をする場合の改修費用を支援する新生活様式対応支援事業ガイドライン対応型3,000万円等を計上してございます。また、同じく国が例示する新たな暮らしのスタイルの確立事業を踏まえまして、ウェブ会議システムや各庁舎への無線LANの環境構築、また、サテライトオフィスからの庁内窓口業務を可能とするRPAの導入等のリモートワーク環境整備推進事業

974万8,000円、市内企業の在宅勤務やオンライン商談会等を可能とするためのテレワーク環境整備を支援する長井市オンライン化促進支援事業等を計上してございます。また、同じく国が例示しております新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進事業を踏まえまして、プレミアム付商品券販売事業やビジネスホテル等がWi-Fi通信を活用し、テレワーク等の新たなビジネスプランの作成を支援するビジネスホテル等テレワーク商品開発事業75万円などを計上してございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 次でございますが、総額5億5,175万7,000円のうち、1、感染拡大防止に係る予算総額は14事業で1億9,765万9,000円、35.8%、2、雇用の維持と事業の継続に係る予算総額は15事業1億8,043万1,000円、32.7%、3、経済活動の回復に係る予算総額は5事業1億2,537万円、22.7%、4、強靱な経済構造の構築に係る予算総額は8事業で4,829万7,000円、8.8%となっています。

国が期待する新しい生活様式等への対応や強靱かつ自立的な地域の社会経済の構築に向けた3原則、プロ人材を含む人材への積極的投資、2、デジタル技術への積極的な投資、3、新たな社会的事業主体の育成を目指した予算となっているのか、竹田参事に伺います。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 お答え申し上げます。

浅野議員ご指摘の強靱かつ自立的な地域の構築に向けました3原則につきましては、令和2年7月17日に閣議決定されましたまち・ひと・しごと創生基本方針2020におきましても、感染症にも経済危機にも強い強靱かつ自立的な地域経済を構築していくための国の施策の方針であります地域の未来に向けた3原則として記載されたものと承知してございます。また、国は、この3原則の下、新しい生活様式を踏まえまし

た各地方自治体の政策分野に関連する取組として、先ほど申しあげました地域未来構想を例示してございます。

長井市といたしましては、先ほども申しあげましたが、これを踏まえた事業として、このたびの補正予算を編成してございます。最初のプロ人材を含む人材への積極的な投資の観点では、今回の補正予算では計上してございませんが、国のデジタル専門人材派遣事業として、このたびの7月1日からNTT東日本の職員を派遣いただき、長井市におけるデジタル技術の活用等についてご助言、ご支援いただくことにしております。今現在、総合政策課のデジタル推進室において検討を始めてございます。今後、新市庁舎の窓口のデジタル環境の整備や各産業分野へのデジタル技術の活用について、検討を行っているところでございまして、また、このたび、補正予算で計上したいいわゆる庁内窓口におけますRPAの導入等を行うリモートワーク環境整備推進事業につきましても、この中で検討をしていきたいというふうに考えてございます。

あと、次のデジタル技術への積極的な投資につきましては、中小企業等テレワーク推進事業やビジネスホテル等テレワーク商品開発事業、学びのオンライン学習環境整備事業等を計上してございます。中小企業テレワーク推進事業では、Wi-Fi設備を有するビジネスホテル等を中小企業が借用してテレワークをする場合、その費用等を支援するものでございます。ビジネスホテル等テレワーク商品開発事業では、ビジネスホテル等が自らの持つWi-Fi環境を活用し、テレワークを行う事業者に向けたサービス提供などの新しいビジネスプランの作成を支援することで、民間事業者のテレワーク普及に寄与するものと考えてございます。学びのオンライン学習環境整備事業では、いわゆる学校が休業、休校等に陥った場合でもオンラインに

より学校外での学級ごとや個別の学習の指導ができるように、先生方が使うタブレットを整備するなどございます。これらの事業に加えまして、既に6月議会で議決をいただきました事業とも併せまして、デジタル技術への民間の投資喚起と行政による投資を行うものでございます。

最後の新たな社会的事業主体の育成につきましては、社会的事業主体とは、地域の教育を支える、また、地域の医療を支える、地域の物流に協力する、地域の移動手段を助ける等、仕事や暮らしの様々な局面におきまして、様々な形で既存の社会インフラや事業インフラを支える事業を行うNPOなどの事業主体のことを指していることと理解しております。今回の補正予算では、直接的にはこういった事業主体の育成を目的とした事業は計上しておりませんが、一方で、長井市におけます社会的事業主体としては、各地区のコミュニティセンターがございまして、このたび、いわゆるコミセンが災害避難等に使用する大会議室等の空調設備の設置に係る費用を計上しているものでございます。目的は、災害時の感染症のいわゆる密対策でございますが、整備を行うことで平時におけるコミュニティセンターの活動の幅も広がり、結果として各地区コミセンの育成にもつながるものと考えてございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 次でございますが、予算総額5億5,175万7,000円に及ぶ歳出を伴うこととなりますので、市内の地域経済にとって効果が感じられるよう、できる限り市内で循環して、長くとどまるようにしなければならぬと思いますが、歳出の基本的なお考えを竹田参事に伺います。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 お答えいたします。

このたびの補正では、県との共同事業といた

しまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休業、失業した生活困窮者への支援、また、売上げが減少いたしました花卉農家や肉用牛肥育農家等への支援、同じく売上げが減少しております中小企業者等に対する利子補給や保証料補給等の支援を行い、市内におけます雇用の維持と各事業の継続を図ることといたしております。また、市単独事業といたしましても、米沢牛の肥育農家のいわゆる肥育の素牛の購入時の給付金支給や市内の宿泊施設の経営維持への支援などにより、市内における雇用の維持と各事業の継続を図りつつ、経済活動の回復及び強靱な経済構造の構築を図るため、市特産品等の販売機会の創出を目的とした商談会や催事等への出展に取り組む農業者や食品製造者などへの支援などの新たなビジネスプランをつくる場合の支援等の事業も計上してございます。

また、ちょっと一例を挙げさせていただきますが、災害等の避難所等におけます新型コロナウイルス感染症対策事業につきまして、避難所で使用する段ボールベッド及び飛沫対策としてパーティションの購入を計上しておりますが、災害対応用の段ボール製品につきましては、全国的な大手メーカーから購入することが一般的でございますが、市内に段ボールメーカーございまして、そこに試作を依頼いたしました。この市内メーカーでは、市の担当課と協議を重ねまして、市の避難所で使用しやすいように大きさや高さ、構造などを工夫して作成いたしました、基本的にはいわゆる大手メーカーとか、あと、既存のカタログ価格の半額以下の見積りで提示いただいたところでございます。今後は、5年分の備蓄を行って、耐用年数を考慮しながら、随時交換が必要かなと考えてございます。災害により道路が寸断され、大手メーカーの工場からの輸送が受けられない場合もありますが、市内企業の強みにより迅速に発注し、調達するメリットもございます。また、金額的にも非常

に低価な金額でご提示いただきましたので、やはり今回のこの事業に限らず、いろんな事業につきましても、市内の企業で調達できるものについては、最優先に市内企業と協議を重ねながら、発注していきたいというふうに考えてございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 できる限り市内の経済を循環できるように、ぜひご配慮をよろしく願っています。

次からは主な事業についてご質問いたします。

9ページになりますが、2款1項6目118及び2款1項7目004新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業のうち、長井のまちサポート商品券事業に係る予算1億1,657万円及びリモートワーク環境整備推進事業に係る予算974万8,000円について、地域づくり推進課長に伺います。

まず、1番目ですが、業務委託料1億1,147万円の業務内容と積算根拠について伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

業務委託料の1億1,447万円のうち、商品券分だけにつきましては1億520万円、内訳につきましては、1人当たり4,000円、それを全人口分ですので、2万6,300人見込んでおりまして、その金額となります。

あと、もう一つ、業務委託料につきましては627万円想定しておりまして、商品券の事業、ほぼ全部の業務の委託を考えておりまして、主な業務といたしましては、商品券、封筒、ポスター、チラシ等々の印刷業務、あと、商品券を全世帯分に配付する封入封緘、発送準備業務、あとは、商品券の取扱いの加盟店との調整業務、あと、広報業務として、例えばおらんだラジオであるとか、広報誌への広報業務、あと、換金の業務であるとか、その他、市民の問合せにつ

きましても業務の中に入れて考えております。積算の根拠につきましては、地場産業振興センターのほうから参考見積りを取ってございまして、また、さきに実施しておりますプレミアム商品券の業務委託の経費のほうを精査しながら、今のところ積算しているところでございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 ただいま説明ありました業務委託と、それから工事請負費600万円ございますけれども、これの発注はどのように考えているのか伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 プレミアム商品券の業務と同様に考えてございまして、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定によりまして、1社随契を考えております。理由といたしましては、相手先は地場産業振興センターを考えてございまして、過去に商品券発行業務の実績があること、あと、市内とか周辺のほうにそういった業務をできる団体等がないことがございまして、1社随契を考えております。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 空調設備工事はどうですか。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 コミュニティセンターのほうの空調設備につきましては、市内の入札参加業者を指名競争入札で業者を選定して発注をする予定でございまして。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 次ですが、市民窓口業務の効率化とサテライトオフィスからの庁内窓口業務を可能とするため、RPAを導入しておりますが、具体的内容について伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 RPAにつきましては、職員がパソコンを使ってやっている業務をシステムのほうで登録いたしまして、機械

のほうが自動的に行うようなテクノロジーといえますか、技術になっております。現在のところ、例えば市外から乳児の方いらっしゃる世帯が転入した場合は、市民課のほうで転入届、あと、医療年金係のほうで乳児医療の手続、あとは、子育て推進課のほうで児童手当の手続を3回、窓口で申請、手書きをして、担当者のほうもその申請書、届出書を見て、システムのほうに入力する必要がありますけれども、RPAを導入することによって、市民課のほうで1回、住所、名前を書いていただければ、それを自動的にデジタル化をしまして、職員が操作する内容を全て機械のほうで実行できますので、職員の事務の効率化、あとは、市民の方も何回も住所、名前書くことございませんので、負担軽減、そういったところを可能とするような技術でございまして。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。

RPA、ロボティックプロセスオートメーションということでございまして、ただいまご説明いただいたように、パソコンの中にあるソフトウェア型のロボットが代行、自動化しております。今回のこの予算で導入が可能なのか伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 今回導入いたしますRPAにつきましては、ソフトウェアでございまして、新たなサーバーとかパソコンのハードウェアの調達は必要ございません。今職員が使っているパソコンのほうに導入いたしますので、税別で500万円計上しておりますが、内訳といたしまして、200万円がライセンスの使用料、あと、導入支援としまして300万円計上しております。導入支援につきましては、業務フローの作成であるとか、業務分析、あとは、パソコンのほうへのRPAの登録、設定作業がございまして、こちらにつきましては、7月1

日にデジタル人材、着任されて、小倉室長が着任されておりますので、デジタル推進室のほうと調整しながら、導入につきましては進めてまいりたいと考えております。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。

このたびの予算で導入が可能だということですが、ランニングコストはどの程度かかりますか、分かりますか。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 ランニングコストにつきましては、操作する部分につきましては職員が行いますので、別に発生しませんが、ライセンスの使用料だけ、年間200万円かかる予定でございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。事務の効率化が図られるということ、あと、スピード化も可能だと思いますので、期待をしたいと思います。

次に、15ページ、10款2項1目105及び10款3項1目107新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業のうち、学びのオンライン学習環境整備事業及び高等学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業、合わせて2,929万9,000円について、教育長及び学校教育課長に伺います。

まず1番目ですが、この予算は、文部科学省が進めるGIGAスクール構想の実現するための予算と理解してよろしいのか、教育長に伺います。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 お答え申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の対応として、オンライン授業を視野に入れた構想へと広がりを見せておりますが、浅野議員おっしゃるとおり、GIGAスクール構想実現のための予算というふうに理解しております。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。

このGIGAスクール構想の実現に向けたハード整備だと思いますが、これでハード整備は全て整うことになるのか伺います。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 これまで本市が整えております全ての教室にネット環境と電子黒板が整い、さらにインターネットができるという環境に加えて、今回の事業によって、タブレット端末が全児童生徒に渡る時点で、文部科学省の提唱するGIGAスクール構想の条件はほぼ整うというふうに考えております。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。

GIGAスクール構想は、次世代の人材を育てるためにはICT教育は必要不可欠だと思いますが、ハード整備だけでは実現しないと思います。ソフトと指導体制を充実することで、目標に向かって進めることができるのではないかと思います。このソフトと指導体制について、今後どのように考えているのか、教育長に伺います。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 浅野議員のご指摘のとおり、ハード面の整備だけでGIGAスクール構想の実現が図られたということではございません。整えられたICT環境を最大限に活用した授業の構築が大きな鍵になるというふうに考えております。日常の授業の積み重ねが本市で願う人材の育成に着実につなげていくことだというふうに私のほうでも認識しております。GIGAスクール構想の目的は、その子供の持っている能力やよさを最大限に引き伸ばすにことにあります。現在1人1台タブレットを生かした効果的な学習の進め方、全国の情報収集を行っておりますが、実は本当に今始まったばかりで、先行事例、ほぼありません。

一方、長井市を見てもみますと、先日、県教育委員会が致芳小学校を訪問しました。そのときにプログラマー学習が進められておりますけども、例えば小学校2年生の曲づくりの授業で一人一人、このタブレットを駆使して、その子の発想を生かした曲がつくれ、それを全体で認め合うというふうな授業を紹介しているところでもあります。また、今年度、これから開催されます総合教育会議ございますけども、その中で、1人1台タブレットを活用した、例えば絵画の鑑賞学習を疑似体験する予定です。今までですと、感想どうだというふうに一人一人が手を挙げて、教師が拾い上げるというふうなことなんですけど、今回のこのタブレットを活用しますと、その1枚の絵の感想を一人一人そこに入力して、全体がそれで見られるというふうな交流を図りながら、教師がグループ化をして、さらにそれを進めるというふうなことが考えられます。このように、本市のことを考えてみますと、先行事例に先んじて、そのような実践が着々と進められているなというふうな実感を今持っているところであります。

なお、長井市としましては、児童生徒が日常的な道具として端末を気軽に利用できるようになる、まず、これが第一だというふうに思います。情報の収集、意見交換、それから、ふだんの授業の中で活用するだけでなく、例えば一人一人の学習とか生活の記録を残したり、振り返りをするといった毎日の学校生活に取り入れた使い方など、本当に簡単に使用頻度を高められる活用を進めていきたいというふうに考えております。加えて、指導体制についてでございますけども、まず、各学校の職員に端末の操作に慣れてもらうことが必要であります。今回の補正予算で整備をお願いしている教師用端末には、どんどん触れるような機会を設けていきたいというふうに思います。特に情報端末操作に慣れているのは若手の教員ですので、この若手

教員の活躍、それから活性化、これらを使いながら職員研修の活性化にもつなげていきたいというふうに考えております。本市では、浅田情報教育推進委員がおりますので、浅田委員を中心としながら、各学校の情報教育担当者を集めてのチームを立ち上げ、広げていきたいというふうに現在考えているところです。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 教育長が先頭になって、ぜひ実現に向けて推進していただきたいと思っております。

次に、学校教育課長に伺いたいと思っております。

今回、補正予算では、教員用のタブレット100台の購入が提案されてますが、先ほど竹田参事にも伺いましたが、市内の経済を回すためにも市内の業者から購入すべきだと思いますが、お考えを伺います。

○平 進介議長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 それでは、質問にお答えいたします。

教員用のタブレット端末については、児童生徒用と一緒に購入する予定で進めています。現在、タブレット端末の仕様書作成に取りかかっており、8月に入札まで進められるように準備を進めています。入札につきましては、臨時交付金の趣旨や目的も踏まえて、市内の業者を中心にすることを想定して、今準備をしているところです。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 ぜひ市内の業者に受注になればというふうに思っています。

最後になりますが、校内LAN工事と充電キャビネット設置工事も予算化の提案されてますが、これはどのように考えているのか伺います。

○平 進介議長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 質問にお答えいたします。

校内LAN工事と充電キャビネット設置工事についても、入札によって業者を選定する予定です。入札につきましては、先ほど同様、臨時交付金の趣旨や目的を踏まえて、市内の業者中心の選定になることを想定しています。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 分かりました。よろしくお願ひしたいと思います。

最後に、市長に伺います。

このたびの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した補正予算、総額で5億1,175万7,000円が提案されていますが、これによって、長井市が目指すコロナ禍における市政運営と、これから長く続くと思われるウィズコロナ、ポストコロナ時代における今後の市政運営について、市長のお考えを伺います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答え申し上げます。

浅野議員から各担当の参事、あるいは課長に、また、教育長のほうにご質問いただいて、その答弁をさせていただきましたが、個別的には答弁のとおりなんです、浅野議員おっしゃるように、改めて、この昨今の新型コロナウイルスの感染症の拡大から、やはり短期じゃなくて、少なくとも2年とか、場合によっては3年ぐらいの中期的な対応ということを私ども、想定しながら、一つ一つの施策を考えてきたところでございます。

○平 進介議長 市長に申し上げます。マスクを取っていただいております。

○内谷重治市長 まだ東京から戻って2週間たってないもんですから、できるだけマスクをとということで答弁させていただきました。失礼しました。

特に力を入れておりますお子様から、あるいはお年寄りまでの比較的、新型コロナウイルスに対してなかなかいざという場合に対応、身体的にも、あるいは社会活動的にも対応しにくい

皆様のための予算を先行させました。したがって、教育であったり、子育てであったり、福祉、介護、これはきめ細かくしております。額は小さくとも、それぞれの担当のほうからいろいろ案を出しまして、それを今回は厳選して計上させていただいたと。もちろんまだまだすべきことはたくさんあると思います。

一方で、長引くウィズコロナ時代でございますので、それに対応するには、やはり社会活動、経済活動をどういうふうにして再開させていくかと。これはもちろん根本は、国でありますけれども、私ども市町村においても、それを踏まえて、国、県の動向を踏まえて、やはり知恵を絞りながら限られた財源を有効活用ということで、今回もプレミアム商品券第二弾ということで、それから、第三弾としまして、商品券を全市民の皆様にお配りしたいと。それは、第一弾で行いましたところ、1人の方がご購入いただく金額を抑えて、できるだけ多く、少なくとも全世帯の半分ぐらいの方は希望があれば買えるように設定しました。ただ、実際は、買う方はやっぱり5割までに達しなかったと。したがって、市民の皆様意識としては、できるだけ現金は手元に置いときたいという心理なのかなということで、第二弾は、やはり改めてもう少し購入をしていただける額を7万円までということで上げまして、できるだけ必要なものを地元の長井市内でご購入いただくように努めていくとともに、やっぱりコロナ時代でありますので、多分ネット通販で買っている人、いっぱいいらっしゃるんだろうなというのが感じられましたので、そういう意味からは、一人一人に地元で使える商品券を、額は本当はもっとももっといっぱいしたいんですが、この辺が我々長井市の限界かなと思っておりますが、それをお配りすることによって、改めて地元でそれを使っただく。その商品券分だけじゃなくて、プラスアルファで地元からご購入いただいて、ご本人はもちろ

んですが、地元の商店はじめ、いろんな飲食業等々でお金が行き渡るようにということ。

あと、第三弾が、これが思わぬ形で、実は将来負担が大きいなと思っているのは、今回のコロナ対策で政府が一番に掲げておりますのは、実は真水のところは60兆円強だというふうに言われてるんですが、全体事業費は230兆円ぐらいの第2次補正までの事業費と言われております。そのうち、いわゆる融資の部分が120兆円、30兆円と言われておまして、それを日本政策投資銀行の金融公庫を中心として無利子、無担保、無保証でお貸しするというのですが、これが山形県の場合、なかなか進まなかったんですね。一方で、これは山形モデルと言われてるんだんですけども、全国のところで山形県ぐらいしかやってないみたいなんですけど、もともとあった山形県商工業振興資金、これは1.6%の利子なんです。私どものほうでは、県と契約というか、以前から取決めしてまして、信用保証協会の信用保証ですね、こちらのほうを状況によって保証して、保証人なしでできるスタイルのものです。これを0.6%を市中銀行で、そして、山形県が0.5%、我々市町村が0.5%で無利子にすると。あわせて、保証料のほうは、山形県が0.34%なんです。私どもも0.34%。ですから、半分、我々持つんですよ。これらの資金を市中銀行でどんどん、借換えも含めて、無利子、無保証、無担保の資金をどんどん貸付けているということで、これはある意味すばらしいことだと思います。

多分、GoToキャンペーンがあのようにちょっと大変な状況になっているという中で、ちょっと長くなってごめんなさい。やっぱりいろんな報道、テレビなどを見てますと、みんな諦めムードですね。せつかく持ちこたえて、これから何とか、少し今まで赤字、赤字だったのを何とかまた生活できるようなレベルと想っていたところが、またコロナの感染者がどんどん増え

ましたんで、もう急激にしぼんでしまったと。ですから、まだまだ経済対策はいろんな意味で難しいんですね、特に飲食業とか観光は。したがって、そのみならず、中小企業の中には、特に製造業もですね、あるいは農業もそうなんですけども、先々の見通しがだんだんだんだん立たなくなってきたと。したがって、経営体質、あるいは、これからもう少し耐え忍ばなきゃいけないという意味では、借換えも含めて、運転資金等々が市中銀行を通じて希望する方に融資いただけるというのは非常にいいことだと思っています。

ちなみに、長井市の場合は、この資金、5月、6月で28億円ぐらいだそうです。8月までですから、果たしてどのぐらいになるかですが、実はこれが怖いんですね。私ども行政としては、確かに借りる側にとっては最高ですし、銀行もいいたろうと。ですから、これは何とかしなきゃいけないんですが、県で言ってるんですが、我々は半分、県と一緒に持たなきゃいけないですよ。しかも融資枠が全く相談ないんですね。したがって、しかも、10年なんですよ。ですから、利子補給ずっとしていかなきゃいけない。これが今回の実は県に対するちょっと不満といえば、そこなんです。あとは、県でいい制度で、銀行と一緒にやってくれたのはありがたいんですが、できれば県が7割ぐらい持って、我々3割ぐらいだったらありがたいというのが本音です。

これは産業部門で、農業者も含めて、いろんな今後の経営のために、やっぱりある程度二、三年のスパンで考えていくためには、いい制度だと思います。これが大ざっぱな概要なんです。この3つをうまく組み合わせたいと思っていますが、またどちらにせよ、このままでは終わらないと思っていますので、私どもも議会の皆様からいろいろご助言やらご指導、ご協力をいただいて、あと、商工会議所、

農協、地元の皆様の市民の声なども反映させながら、この後もぜひいろんな対策を皆様とともに取っていかなくちゃいけないと思っておりますので、何とぞよろしくご指導いただければというふうに思います。

大変雑駁な話で恐縮でございますが、そんなことで、今回予算を計上させていただきました。どうぞよろしくお願いたします。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 ありがとうございます。今後は感染対応等、経済を回すためにいろいろ政策、大変であります。どうぞよろしくお願したいと思っております。

質問は以上で終わります。

○平 進介議長 ほかにございませんか。

10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 12ページ、7款商工費、1項商工費、2目商工振興費について、商工観光課長にお聞きしたいと思います。

第一弾で行いましたプレミアム商品券発行の目的は、商店街の活性化、経済支援だと思っておりますが、長井市内の全体のスーパー、コンビニ、一般小売店の登録数は何%だったのでしょうか。また、小規模小売店に限定した場合、小売店の登録数は何%だったか、教えていただければと思います。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 第一弾のプレミアム付商品券の登録店舗につきましてお答え申し上げます。

全体の事業者数につきましては、経済センサスの数値から判断しておりまして、飲食業、交通、タクシー、運転代行、それから宿泊業につきましては、全体が189、そのうち、このたびの第一弾の登録店舗数は68でありました。割合にしますと36%になります。また、小売店、その他サービス業につきましては、ちょっとこちらのほうはなかなか線引きが難しいところなん

ですけれども、経済センサス上、娯楽以外のサービス業も含めると438事業所あります。このうち、このたびの取扱店参加事業所数は144となっております、33%という割合になります。

最後のご質問のこのうちの小規模の小売店舗だけというふうな部分ですが、ちょっとこれはもう少しセンサスの細かいところを見ていかないとはいっきりしないものですから、大変申し訳ありませんが、今現在お答えできませんので、ご了解いただきたいと思います。以上になります。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 今お聞きしたのは、市内の商店が元気になるという、それが目的だと思いますので、小規模小売店に対して登録を推進するために何らか手だてを打ったのでしょうか、商工観光課長にお聞きいたします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 このたびの取扱店の参加募集につきましては、まず、基本的には商工会議所に加盟している会員の皆様にはご通知申し上げたところですが、それ以外につきましては、市の広報などが公の募集になります。そのほか、やっぱりなかなか申込みに来られない事業者さんが結構いらっしゃいましたので、商工会議所の職員と、あと、地場産の職員、そして、商工観光課の職員で、それぞれ声がけをさせていただいたところもございます。時間がたつにつれ、だんだんと取扱店が増えてきているというふうな状況でして、これは実際に商品券を買われました市民の皆さんがそのお店に行って商品券使えますかと伺っていただいているようでございまして、その効果が結構大きいかなというふうに思っております。当初、販売開始したときよりは、相当数、現在増えておりますので、もう少し増えるように頑張っていきたいと思っております。以上になります。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

第二弾について確認いたしますが、A券は第一弾の残り分として7,750冊、販売方法については前回と同じ、また、購入金額につきましては、先ほど市長がおっしゃってましたように、A券、B券合わせて7万円のうち、B券が5万円までとなっております。また、使用期限は12月26日でよかったですでしょうか、商工観光課長にお聞きします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 まず初めに、使用期限につきましては、これは第一弾と同じポスター、同じ取扱店でスタートさせていただきたいと考えております。したがって、使用期間も同じ12月26日までというふうな考えでおります。また、購入の限度額につきましては、先ほど市長のお話にもございましたとおり、第一弾の販売状況を見ますと、やはり3万円では足りないというふうな方が大多数でございました。結果的に、購入限度額を抑えた結果、残数が相当、最初出まして、その後、道の駅で継続販売いたしましたので、何とか7月8日に完売したところがございますけれども、やはり皆さん、限度額を上げてほしいという声が大きかったことから、それが一つと、あと、もう一つは、やはり多くの方にご購入いただきたいというようなことを併せまして、7万円まで今回上げさせていただいたというふうな経過になっております。よろしくお願ひします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 次ですが、第一弾のプレミアム商品券の販売に関して、印刷費200万円、手数料280万円で行っていますが、今回の商品券チラシ登録店ポスター印刷代で290万円、販売手数料で710万円となっております。前回と印刷費で90万円の差、事務手数料で420万円の差が出ていますが、この差は何なのかお聞

きしたいと思ひます。また、販売会場の各地区のコミセンの使用料などは入っているのかも併せて、商工観光課長にお聞きしたいと思ひます。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 お答えします。

まず、印刷費につきましては、今回、2万冊かな、いわゆる小売業のB券のほうの冊数が増えておりますので、その分で増えてきたかなというふうに思ひます。また、販売業務手数料につきましては、第一弾で地場産と商工会議所にお手伝いいただきまして、また、コミセンの職員の方にもお手伝いいただいて実施したわけですが、市内7か所で販売したというふうなことで、それから、売れ残った分につきましては、継続的に道の駅で特設ブースを設けて販売をしていたというふうなことから、主に人件費の部分で、ちょっと積算よりも多くかかってしまったというふうなことを踏まえまして、今回はその分も十分に考慮して、販売業務手数料のほうを増額させていただいたというふうなことでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 分かりました。

やはり会場には職員の方が大勢いらしたということは私もちょっと感じましたけれども、コミセンの使用料としては別に、人件費等は別にあるのでしょうか。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 コミセンの部分について、説明抜けました。コミセンのほうには、謝金ということで、それぞれ同額お渡ししております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 第二弾がまた皆さんの手元に届いて、長井市内の活性化になると思いますので、ぜひ多くの皆さんに地元で使っていただくようお願いしたいと思ひます。

次に、9ページですが、2款総務費、1項総

務管理費、6目企画費の中で、先ほど市長からお答えが出たような気がしますが、地域づくり推進課長に改めてお聞きしたいと思います。

今回、1人当たり4,000円の商品券の送付ということで提案なされておりますが、対象となる商店などはどのようにお考えになっているか、お聞きしたいと思います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

取扱いの加盟店につきましては、プレミアムの第二弾の店舗、サービス、飲食、あと小売のほうの店舗を全て対象にということで考えているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 プレミアム商品券と同じですと、やっぱりスーパー、コンビニなども入ってしまうような気がするんですが、4,000円という金額なので、私は市内で頑張っておられる小売店を特にターゲットにしてほしいなと提案したいと思います。やはり先の見えないウィズコロナということで、後継者問題などで商店が本当いろいろ悩みを抱えているところが多いと思います。そういった現状に少しでも市内を元気にしてくれるような商品券の使い方を私は提案したいと思います。地域づくり推進課長はどのようにお考えでしょうか。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 ご提案ありがとうございます。店舗につきましては、商工観光課、産業部門のほうに相談しながら、あと、上司のほうに相談いたしまして、これから検討してまいりたいと思います。実際、年末に向けた商品券ですので、11月下旬に発行予定で、まだ時間ありますので、今後調整させていただきます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ぜひこの件につつま

しては、そのようにしていただきたいと強く思うところです。

先ほど市長、そのようにお答えになりましたので、改めて市長の考えをお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 新野地域づくり推進課長のほうからお話ありましたけれども、私個人としては、サービス、飲食も含めて、小売も含めて、できれば商品券を扱いたいという方にはどこでも使えるようにしたいというのが本音です。一番大変なのは換金というところなんですね。ですから、プレミアム商品券もそうなんです、手を挙げていただくところは、商品券を使って、プレミアム商品券とか、今回皆さんにお渡しする商品券で、自分のお客様のサービスという考え方一つと、あと、自分のところはあんまりないだろうから、ちょっと大変だから手を挙げないという方もいらっしゃるわけなんですよ。ただし、今回は2万6,300名の方に1人4,000円ですから、小さいお子様とか、あるいはお年寄りのいらっしゃるご家庭なんかで、大家族のご家庭ですと非常に使い勝手がいいだろうと。やっぱり鈴木富美子議員おっしゃるように、手を挙げたところはどこでも使えるような、そういったものを検討してまいりたいと思いますが、難しいのは、手を挙げてもらえるかどうかなんですね。先ほど赤間商工観光課長が申し上げましたように、できるだけ本当に扱っていただけるお店といますか、業者さんが多ければ多いほど、やっぱり地域の中でお金がうまく循環するので、商工会議所やら、地場産センター、あるいは商工観光課の職員が手分けしてお願いしてあのぐらいですので、これからもどういふふうにするかは内部でもう少し検討してまいりますが、ぜひできれば、ご希望していただける、そういう扱っていただける方々にはくまなく扱っていただけるような、そんな商品券にしたい

など考えているところです。今後ともよろしく
お願いします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 11月下旬ということ
をお聞きしたので、ぜひ検討していただきまし
て、やはり小さな商店は、このコロナの件も踏
まえて、もう後継者いないからやめようかなと
いうふうになってしまわないように、みんな
協力していかなければいけないと思ってお
りますので、ぜひ検討をお願いしたいと思
います。

続きまして、12ページの6款農林水産費、1
項農業費、5目畜産業費の中のおうちで美味
しく黒べこまつりの件につきまして、農林課長
にお聞きしたいと思います。

おうちで美味しく黒べこまつりは8月1日と
8月8日販売ということで、これからござい
ますが、市民の方からは大変いい企画だとい
うお褒めの声もお聞きしたところです。第二弾
となる秋の陣、すき焼き、米沢精肉セット、米
沢牛すき焼きのたれセットにつきましては、何
月頃を予定しているのか、内容についても、農
林課長にお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 沼澤孝典農林課長。

○沼澤孝典農林課長 お答えをいたします。

秋の予定でございますけれども、10月中では
まだちょっと早いというふうに現在考えてお
りまして、11月に入って、中旬頃からという
ふうに現在のところ考えてございます。枝肉
価格の動向等、消費の動向等も含めて、十分
に時期を検討した上で、改めてご案内した
いというふうに考えてございます。

内容でございますが、先ほど議員おっしゃ
いましたように、秋は5,000円のセットに
ついてはすき焼きを予定してございます。セ
ット数でございますけれども、5,000円の
セットが500口、3,000円のセットが
600口、件数については、先日販売完了
いたしましたものと同様というふうに考
えてございます。このたび、趣旨を市民の

皆様にも十分ご理解をいただき、賛同を
いただき、無事完売できましたので、秋の陣
につきましてもまたよろしくお願
いしたいというふうに思います。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 分かりました。

私の場合ですが、牛肉はなかなか自分
では買えないので、こういうのはすごく
いいなと思いますが、セットについて
ます商品券についてですが、この商品券
についても、牛肉に限るとい
う条件がついておりますが、これにつ
きましては、消費者の自由にしてはど
うかなと私的には思います。やはり
2,000円で牛肉を買おうと思
うと、なかなかちょっとぐら
いしか買えないし、追加で
買うというのもあるんです
が、消費者としての自由な
発想というわけにはいか
ないでしょうか。お店によ
って、やっぱりいろんな
豚肉だったり、馬チャー
シューだったりあるので、
その辺をちょっと考慮し
ていただければと私的
には思います。農林課長、
どのようにお考え
ですか。

○平 進介議長 沼澤孝典農林課長。

○沼澤孝典農林課長 お答えをいたします。

この事業、畜産業も含めて、農業全般
なんですけれども、コロナの影響を受
けたところの部分を重点的に支援す
るといような位置づけに
してございます。畜産につ
きましても、いろいろ牛、
豚、鳥とございますけれど
も、現在の動向でござい
ますが、和牛の部分が特
に大きく影響を受けてい
るというふうなところ
から、その部分に重点
的に支援をしたいとい
うふうに考えて行
う事業でござい
ます。したが
いまして、農
林課といた
しましても、
議員おっしゃ
った、いろ
んな市民の
方の要望等
あるわけ
ですけれど
も、今回の
支援の
内容につ
きましては、
あくまでも
和牛に絞
って現在の
ところ考
えてござ
います。な
お、今後、
さらにい
ろいろご
意見を頂
戴いた
しまして、
秋まで
まだ間が
ございま
すので、な

お検討してまいりたいというふうに思います。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 分かりました。

和牛の支援ということは分かりますが、市長、この件についてどう思われますでしょうか、市長のご意見をお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員おっしゃるのもよく分かります。ただ、課長が申しあげましたように、もともと黒べこまつりの実行委員会が主催となってこの事業を組み立てたということでございまして、原則的にはやっぱりちょっと低迷している米沢牛を応援しようということなものですから、商品券も牛をとということなんです。ただ、市民の心理としては、やっぱり牛だけではなく、馬刺も食べたいとか、あるいは豚もいいなというものもありますので、この辺のところは、なお、実行委員会の委員長をはじめ、JA山形おきたまさんなんかにもご協力いただいておりますので、ちょっと相談させていただいて、できるだけ汎用性のあるようなものにできればと思っておりますが、なお検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 検討していただくということでありがとうございます。やっぱり1,000円、2,000円の商品券だとほとんど何も買えないという状態なので、プラスアルファのほうが大きくなっちゃうのかなと思ったりして、それはいいことなんですけど、ぜひ、時間がありますので、ご検討願えればと思います。

以上で終わります。ありがとうございます。

○平 進介議長 ほかにございませんか。

8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 質問させていただきます。

最初に、9ページ、2款総務費、1項総務管理費、6目企画費、015地場産品による帰省自粛者応援事業について、長井市に帰省できない

市外在住者に対して地場産品を送る際の送料、上限1,000円を支援するとありますけども、その市外在住者の規定はどのようになっているのかを総合政策課長に伺います。

○平 進介議長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

道の駅川のみなと長井から、今のところ2,000円以上の商品をお買い上げいただいた方で、その場で送るわけですので、送付先がいわゆる市外の方に限定をするということで、今のところ想定をしております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 じゃあ、そうすると、長井市に帰省できない、要するに通常ですと、親戚であつたり、そういった、イメージ的にはそういうふうに見えたんですけども、そうじゃなくて、要するに知り合いだろうが、道の駅から2,000円以上送る方は、これを使えば1,000円の送料の補助が出るという形でよろしいのでしょうか。

○平 進介議長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

基本的な考え方としては、やはりこのたびのコロナ禍におきまして長井市のほうに帰省を自粛してる方という趣旨でございます。それで、市民の皆様にもそういう趣旨で帰省できない場合に送料を支援しますということでご周知はしますが、ただ、一人一人にそういう理由ですかというのはやはり聞くことは現実的なことではできないものですから、趣旨の周知をしながら、ご理解いただいて、1人1,000円まで送料を支援したいというふうに考えてございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 道の駅限定という形でよろしいのでしょうか、市長、お願いします。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

すみません、私のほうからちょっと趣旨も含

めてお答えさせていただきたいと思うんですが、これは目的は2つございまして、ゴールデンウイークの際に、これは赤間議員からもあったんですが、いわゆる地場産品が売れないわけなんです。それはなぜかという、帰省される方がもう帰省しては駄目だということで、非常に地元の農家をはじめ、食品加工業者さんをはじめ、いろんなところで影響が出ました。ですから、それを地元の家族とか親戚がそういった方々に送ろうということで、送る際の送料を支援しようじゃないかというのが趣旨であります。したがって、道の駅じゃないと駄目かというのは、確かにそうなんです、いろんなところしますと、事務量が大変なんです。というのは、そのお金も精算しなきゃいけない。しかも、これはいいけど、この品物は駄目よというのはなかなか難しいわけですね。したがって、本当は菜なポートあたりもいいんでしょうけども、特にお盆あたりですと、もう忙しいわけですね、どこの店舗も。ですから、道の駅に限定させてもらって、道の駅ですと一般的なものはほとんどありませんので、地元、市外の業者さんのものもありますけれども、そういった意味で、長井の味を、地元の食べ物を、あるいは特産品を市外にいらっしゃるご家族や知人、親戚に届ける応援をしようという2つの目的でございますので、よろしくご理解いただきたいと思っております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 分かりました。

次に、9ページ、7款行政事務等改善推進費で、先ほど浅野議員、質問していらっしゃいましたリモートワーク環境整備推進事業について、この緊急事態の際の設置を検討しているサテライトオフィスというのはどことどこになるのかを地域づくり推進課長に伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

既に長井小学校の旧第一校舎、あと、TASのほうにはサテライトオフィスということで準備しておりますが、そのほかの場所としましては、市民文化会館、保健センター、長井病院、学校給食共同調理場、その部分を含めて、オフィスの分散化ということで検討しているところでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 それで、サテライトオフィスからの庁内業務を可能とするRPAを導入するとありますけども、その際のセキュリティ対策に関してはどのように考えていらっしゃるのか伺います。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 サテライトオフィスとのネットワークにつきましては、庁内の閉じられたネットワークで構築する予定ですので、閉じられたネットワークということでセキュリティは担保されているところでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 RPAの導入業務委託となっておりますけども、候補先はどこになるのでしょうか。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 委託先はまだ決定しておりません、調達につきましては、何社か候補ございますので、提案していただいたり、必要があればプロポーザルで業者を選定していきたいと考えております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 分かりました。

あと、先ほど鈴木議員が商工観光課長のほうにプレミアム商品券の件で質問していただきましたけども、その中で、印刷費に関してちょっとよく分からなかったんですが、前回、1回目のプレミアム商品券印刷費がA券1万2,000冊、B券が1万1,000冊、今回の2回目に関しては

2万冊ですよ。当然、前回は2万3,000冊印刷して、今回2万冊しか印刷してないのに高くなってんですけども、その辺はどのようになっておるのかをちょっと教えてください。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 プレミアム商品券の印刷費に関しましてですが、ちょっと詳細の見積書類持ってきておりませんで、この場でお答えすることできませんので、後ほど詳細につきまして、文書で提出させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 あと、販売業務手数料に関しても、やはりちょっと疑問符、前回は280万円で、今回710万円であると。前回、非常に金額がかかった。今回420万円、2倍近くプラスになっているわけですよ。要するに完全に最初から見積りを取っているわけではなくて、かかった金額が請求になってきたからこの金額になったという考え方なのか、それとも、最初にこれだけの業務があつて、これの見積りがあつて、それに対して予算化したのか、その辺はどうなんですか。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 前回、第1回目のおきも見積りは徴収いたしました。それに基づいて積算したわけですが、見積りを徴収したにもかかわらず、実際に実施してみたところ、やはりその見積りの額では足りなかったというふうな事実がございます。このたびは、その部分を踏まえて、賄えるような積算内容で計上させていただいたものでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 じゃあ、今回の710万円の中に、前回のマイナス分が入っているという考え方なんですか。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 前回のマイナス分が入

っているということではなくて、2回目に行うに当たりまして、これぐらい必要だというふうな積算内容になっております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 来た見積りに対して積算した金額がこの710万円という形というふうを考えてよろしいということですよ。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 第二弾の積算に当たりましては、再度、置賜地域地場産業振興センター及び一部長井商工会議所からも再度見積りを徴収させていただきました。それを基に、庁内で内容を吟味させていただいて、積算させていただいたものでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 分かりました。

あと、成人式のライブ配信事業についてちょっとお伺いしたいんですけど、これはどういった形でやるのか、要するにZoomを使うのか、Zoomを使った場合はどういうふうな形でやるのか、その辺、分かる範囲でいいので、文化生涯学習課長にお伺いします。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 お答え申し上げます。

ライブ配信事業につきましては、メインとなります会場について、ユーチューブのほうで配信をさせていただきたいと思ひます。あと、もう一つ、交流の場をつくりたいということで、これ、今どういうふうなソフトを使うか、Zoomを使うかという再検討しておりますが、成人者の方と現地をつなぎまして、皆様方から双方向で会話できるようなことで今考えているところでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 式典はユーチューブで配信するだけなんですか。それとも、見るだけなのか。つながって成人者の代表の方が挨拶する

場合は、式典にいらっしゃるのか、いらっしゃらないのか、その辺はいかがなんでしょうか。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 式典につきましては、成人者の方の代表の方のご挨拶があります。それはいわゆる会場とつないで、現地のほうからいただきます。あと、実行委員会のほうの挨拶もごございますので、その方も居住地のほうから現地をつないで挨拶を頂戴する予定でござい

ます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。
○8番 内谷邦彦議員 そのつながる台数は一体何台ぐらいつながるんでしょうか、式典の際に会場と成人者2名の方はつながりますけど、ほかの成人者の方はどのぐらいつながるんですか、それはまだ分かってらっしゃらないですか。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 お答え申し上げます。

こちらのほうもライセンス契約によりまして、つなげる台数があります。今のところ、対象者のほうが284名ほどおりますので、マックスその方はつながるようなことで今計画しているところでございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 あと、式典が終わった後、交流の場をつくるという形になった場合に、交流の場というのは、全員一緒の形のつながり方をするのか、それとも、中学校ごととかいろいろ区分けがあると思うんですけど、その辺はどのように考えてらっしゃるんですか。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 お答え申し上げます。

今私どもが想定しているのは、イメージとして、こういう大きい部屋が一つありまして、その中にテーブルを何十個かけます。その中で自分が行きたいようなところにアクセスして

いただくと、そのグループの中で話せる、違うグループでよければそっちにまた移動していただくようなことで、グループ分けをして考えています。そのグループについては、クラスがいいのか、何がいいのかというところを今検討中でございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 いろいろ考えてらっしゃるんでしょうけど、できる限り参加者を多くしていただきたいとも思いますし、せっかくですので、ユーチューブで配信して、あと、つながらなかったということがぜひないようにだけはしていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

あと、最後に、市長にちょっとお伺いしたいんですけど、今回の提案された補正予算5号の内容を見てみると、現在の状況に対応して、事業拡大であったり、経済支援であったりしていると思います。今後新型コロナウイルスの感染が長井市で発生し、拡大した場合の対応について、どのように対応することを考えてらっしゃるのか、その辺はいかがなんでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 議員のほうからのご質問は、長井市で新型コロナウイルスの感染者が大勢発生した場合どうするのかと、その対応についてのご質問だということによろしいですね。

まず1つは、私ども、保健所は持っておりませんので、県と一体となってまずは感染症の感染防止のための施策を取ることになると思います。その際、これは往々にしてあることなんですけど、例えば今も少しずついろんな会議を始めさせていただいてます。これはいつまでも、オンライン会議をできないわけですから、ずっと何もしないで、書面だけで1年も2年もというのは、これは現実的ではないので、これはやっていかなきゃいけないと。したがって、よっぽど気をつけていかないと、議員おっしゃるように

感染者が出て、そして、クラスターみたいな格好で広がるということは往々にしてあると思っています。例えばつい忘れちゃうのは、今日は窓開けてますけど、窓開けないで、エアコンだけつけてやる会議ってあるんですね。あと、今日はマスク外させていただいてますが、私はもう発言もマスクはしたほうがいいと思ってます。それじゃなかったらフェースガードで本来はやるべきですよね。飛散するのが一番リスクあるわけですから、むしろマスクなんかは人に対する飛散防止なんですね。ですから、そういったところがまだまだ徹底されてないと。

あとは、懇親会なんかも少しずつやっていますが、私も懇親会、今月2回出させていただいて感じたことは、この間、開催した農業委員会の歓送迎会、これは実にいいやり方だなと。みんな席立たないんですよ。酒つぎはしない。ビールと、例えばお酒、酎ハイ、あるいは水割りとか、そういったものも、その会場の従業員の方が作ってくれる。一人一人が歓送迎会ですから、全員がマイクを持ってステージに立って自分の自己紹介やら、いろいろな考え方をやると。司会者がそれをずっと上手に2人に分けてやっていただいてましたけども、実に充実したいい会合だったなと。どちらかという今まで歓送迎会とか何かという、個人でわいわいしゃべって、これはこれで楽しいんですけども、一体感というのはあんまりないんですね。全然話しなかった人なんかも出るんですが、そういったことをやってまして、できるだけそういった形で、まずは感染防止の対策を取りつつ、これをやめるということはすべきじゃないと思っています。

やっぱり心配なのは、私も先々週ですけども、東京行ってまいりまして、気をつけてはいるんですが、いつもらってきてるか分からないと。ですから、そういった意味でいえば、クラスター発生した場合どうするかということは、これ

は従来どおりしかないんですね。県の保健所の指導に基づいて、例えば職場を閉鎖したり、消毒をしたり、なお一層対策を基本に返って、みんな一人一人徹底するということなんですが、一番はまずはPCR検査ですね、これを今はまだ東京あたりも聞いてみますと、受けたくても受けられない。しかも個人で、東京だと60か所ぐらい、自費でお金を出せばやってくれるそうなんですが、大体1人当たり2万円から3万5,000円ぐらいまで差があるんですね。これを負担しなきゃいけない。ただ、保健所からいいよと言われた場合は無料になるわけですね。ですから、この辺の矛盾と、医師会の先生方からもお聞きしますと、長井市でもできるんだよと、そういうキット、例えば唾液なんかでも十分できるようになってますので、そういったところを今後、やはり県のほうからもご協力いただいて、あとは、長井西置賜医師会の外田会長はじめ、いろんな方々からご意見をいただきながら、発生したらどうするかということもあるんですが、そろそろ私どもでもPCR検査して自分は陰性だということを一人一人が確認できる社会を早くつくっていくべきだと思っています。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 その辺の対応はぜひお願いしたいと思います。

あと、長井市で感染者が発生し、自宅待機となった場合を想定した場合に、市からの援助に関して何も無いように見えますけども、どのように考えるのかと。やっぱり自宅待機者になったときに、家族がいない場合であったり、食料品とか生活必需品を誰が購入し、届けるのか、その辺のところまである程度案としては持っておかないと問題なのかなと思うんですけど、その辺に於ける考え方はいかがでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 このことについては、健康課長のほうからちょっと一部、私のフォローをし

ていただきたいというふうに、後で答弁させていただきたいんですが、私の個人的な考え方といたしましては、山形県はコロナ感染症の対策については、医師会はじめ、いろんな病院と連携してしっかりなさっているというふうに思っています。今回も補正で予定させていただいてますが、特に置賜の山田医療監、保健所の所長も積極的に説明のビデオ、いわゆる正しくコロナを恐れるということでの動画などもご協力いただいています。置賜にもご承知のとおり、何か所か指定病院がございます。一番近い置賜総合病院の中でもいわゆる軽症者の病床もございますので、基本的に陽性と認定された方が自宅待機というのはあっても1日か2日ぐらいで、必ず入院するもんだというふうに私は思っておりますので、感染症が蔓延する初期の段階で、自宅待機と言われて、そのまま亡くなった方などありましたよね。そういったことは医療関係者は十分承知して、放置するということは基本的にならないというふうに思っております。

したがって、重症者については重症者の病床があるわけですね。あとは、軽症者も、置賜総合病院でも何十床か確保していますので、大阪みたいに、長井市で50人も100人もなんてことはないとは思いますが、あった場合のときは、これは県全体で対応いただくということになるかと思っておりますので、私はその点にあまり不安はございませんので、こういう答弁をさせていただきましたが、やはりこれは県のほうときちんと詰めておりませんので、その辺などを今後検討して、いざというときに備えたいと思います。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 内谷議員のただいまの質問でございます。

ただいま市長から答弁ありましたように、まず、感染された方につきましては、感染症指定病院のほうで入院というのが原則でございます。その中で、重症者、軽症者等を振り分けがされ

るのかなと思いますけれども、万が一感染症指定病院のほうがいっぱいになりまして、受け入れ難いというふうな場合は、保健所からの指示の下、自宅待機という部分につきましては、今のところ県と保健所のほうからの想定ではございませんが、自宅待機の前に民間のホテルのほうを県のほうで契約してございまして、軽症者につきましては、ホテルでの治療というふうな部分がございます。それでも万が一増えた場合という形になりますので、自宅待機というのは、今のところは考えてはいないとはちょっと申し上げられませんが、そういった場合も含めまして、单身の方につきましては、東京のある区のほうでは、2週間分の食料品を援助するような制度もございます。そこら辺も視野に入れながら、検討はさせていただきたいというふうに思っております。なお、高齢者につきましては、福祉のほうで高齢者のサービスという部分もございますので、そこら辺の制度のほうもよく確認しながら、十分に対応していくようにしたいと考えてございます。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 常に最悪の状況を考えて、案だけは最低持っていないと、その場になったときに何もできないということになってしまわないようにだけよろしく願いいたします。

あと、最後なんですけども、今新型コロナウイルスのワクチン開発が進んでいます。今年度中にワクチンの接種開始となった場合、もしもの話なんですけど、その辺の補助に関してはどのように考えてらっしゃいますか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

現在の段階で、政府、国のほうでワクチンの接種についてはっきりした案といたしますか、方針は私は聞いてないんですが、多分あると思うんですが、一般的に言われているのは、国が全て、例えば1億人分確保して、それを無償で国民に

供与するというのが基本だと聞いております。ワクチンのほうが早ければ年明けぐらいに実用化できるんじゃないかと。特に進んでいるイギリスとか、数か国で共同でやってるプロジェクトなんかですと、今年、年末あたりにも実用化されそうだというふうに言ってますが、果たしてこれが全て有効なワクチンなのかというのはもう分からないですけども、多分それが国民みんなに行き渡るにはやっぱりそう簡単にはいかないだろうなというふうに私個人としては思っております。ただ、できるだけ早くそうなっていて、来年の春ぐらいまで国民みんながワクチンを受けることができれば、間違いなくオリンピック・パラリンピックが開催できるということで、国家の威信にかけて、これはワクチンの確保をしようとしていると。その際に、お金がなくて受けられないということじゃなくて、これはもちろん全員無償で受けてもらうというのが政府としての考え方ではないかなと思っております。

○平 進介議長 8番、内谷邦彦議員。

○8番 内谷邦彦議員 それであれば一番よろしいんでしょうけど、順番もあるでしょうし、様々な面で問題が出てきた場合に、市民の方々、高齢者であったり、かかる確率が高く、重病になる確率が高い人から接種していただけるような方策が取れば、ぜひ取っていただきたいと思えます。

以上で私の質問を終わります。

○平 進介議長 ほかにございませんか。

15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 ページ数は9ページ、地域づくり推進課長、商品券の話なんです。すみません、何度も出てますが、今回の対象者ですね、R2年11月1日現在2万6,300人となっておりますが、これ、何で11月1日なのかということが疑問で、どうせなら12月31日までしたらいのになと思うんですけど、これ、11月1日と

した理由は何でしょう。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

年末に合わせまして発送日を逆算して想定したところ、11月の24日あたりで送るということを予定をしております、その逆算でいったときの基準日を11月1日ということで想定しているところでございます。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 逆算したのは分かりませんが、それは何も12月31日でもいいんじゃないですか、対象者ですから、作業じゃないですから、と思うんですね。

もう一つ、人数が2万6,300人ですね。これは見込みでしょうけども。この中には外国人登録者、住民票を登録している方が何人いらっしゃるでしょうか、その2点についてお願いします。

○平 進介議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 基準日につきましては、一斉にどこかの基準日の住民に対して送る必要がありますので、一旦11月1日現在で処理をかけまして、その方に一斉に送るような形で考えておりますが、例えば11月1日以降に出生された方というものもやっぱり想定されますので、ほかの自治体の例を見ますと、母子手帳を持っていらっしゃる方につきましては、今回1人4,000円のところ8,000円配付しているという事例もございますので、これからそういったところも取り込めるような検討は進めていきたいと思えます。

あと、もう1点、外国人につきましては、今回対象につきましては住民票が長井にある方ですので、外国人の方も全て、定額給付金と同じような考え方で住民票を持っていらっしゃる外国人も該当となります。おおむね人数につきましては、約350人ということで考えております。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 つまり、外国人登録者を除くと、長井市民というのは2万6,000を割ったということなんですよね。非常に深刻だなというふうに思いますけども、それから、さっき市長からあったんですけども、4,000円という額なんですけども、これ、5,000円じゃ駄目なんでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

蒲生議員おっしゃるように、できれば5,000円、本当は1万円ぐらいしたいところなんですけど、2万6,300人ですと、1万円ですと2億6,300万円、それが5,000円ですと1億3,150万円ですか、ということで、やはり実際のところ、財源が非常に厳しいと。それは、公共施設整備等々を鋭意今進めておりますので、基金も底をつきそうだということ、そんなことで、最初、せこく3,000円でなんて言ったんですが、副市長に3,000円はねえべ、市長、なんて言われまして、隣の白鷹町が5,000円なので、我々もそれに少しでもということで、できるだけプレミアム商品券の発行数をちょっと減らして、むしろ1人4,000円でできるだけ多くの方に使っていただけるように、支援になるようにということで考えたところでございます。

蒲生議員からはやはり新生児の配慮も必要じゃないかということで、ちょっと私もすぐ理解できなかったんですが、ぜひ、新野課長が申し上げましたとおり、年内に生まれる予定のお子様のご家庭には、お母様に母子手帳があれば2人分ということなどで今後検討してみたいと思います。

なお、財源については、今の段階ではちょっと厳しいかとは思っておりますが、もし何らかの財源、例えばふるさと納税とか、もしかしたらいっぱい上がって、いや、1,000万円、2,000万円追加できるよということになれば、これから多分、第二弾で終わりじゃなくて、年明けて、

また何らかの形で経済政策、あるいは市民の皆様への生活の支援策というのが取れる場合に、それらを財源として確保できれば頑張ってまいりたいと思いますので、今回はそんなことでよろしくご理解いただきたいと思います。ありがとうございました。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 限りある予算の中でやるわけですから、あまり無理なこと言っちゃってしょうがないとは思んですけども、これから生まれる子供さんには、何でうちの子供、対象になんねのやという、定額給付金の問題もありますので、やっぱりたかが4,000円、されど4,000円ということで、ぜひ対象範囲を優しい心を持っていただいて広げていただくようお願いをしたいと思います。

次に、プレミアム商品券、何度も何度も商工観光課長には申し訳ないんですけども、これをお聞かせをください。

今日の山形新聞に東根市が50%のプレミアム商品券を出すという記事がございました。長井市は30%と20%ということで、前回と引き続きなわけですけども、この割合について、これまで20%なのか、30%なのか、いろいろ検討なさったと思うんですね。20%、30%に落ち着いた理由というのは一体どこにあったのかということをお聞かせください。A券は今回売れ残ったわけですよ。宿泊、飲食関係は特に厳しいということを聞いてまして、確かに行ってみると、TASのシャロアなんか真っ暗だし、お昼時は9階で食事をなさってる方もいらっしゃいますが、ソーシャルディスタンスで、もう客をあんまり入れることもできないということで、大変だなという思いをしてるんですよ。A券が売れ残ってしまうということがあったわけですが、この割増し率について、どのような検討経過をたどって30%、20%になったのかということについてお聞かせください。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 お答えします。

ほかの市町村におきましては、5割増しとか4割増しの商品券を発行していると伺っております。ただ、一律という商品券が多いというふうに私ども、ずっと感じておりました、長井市の場合は、まず、3月からゴールドデンウイーク明けまで、特に飲食業、それから二次交通と言われているタクシーや代行者さんあたりの売上げが多いところだと10割減、お店を休んでいるというふうな状況もありましたので、まず、第一にその分野を救わなければならないのではないかとということで、自粛解除後、いち早く飲食店及び宿泊、交通業の利用を促進したいということから、一般の小売と分けて割増し率を増やしたというふうな考え方が一つです。

あと、もう一つは、わざと分けたわけですが、前回、平成27年度に実施したときの反省点で、そのときは一律の商品券だったわけですが、市内の電気などの大型店、そちらのほうに買物が集中したというふうなことも踏まえまして、そういった偏りのないように、なるべく長井市内の事業者さんで使っていただきたいという思いもありまして、わざと飲食店と小売一般サービス業を分けさせていただいたという経過になっております。そのような理由から、3割と2割というふうな設定をさせていただいたという経過でございます。

残念ながら、蒲生議員おっしゃるとおり、いわゆるA券のほうについては売れ残ってしまったわけですが、これは今回、なるべく全市民に行き渡るようにという配慮から1世帯当たり3万円までという設定をさせていただきました。その結果、どうしても飲食より、まず、品物を購入するB券のほうに偏りが出たのかなという見方もできますので、そんなことでちょっと残ったのかなという感じはしております。第二弾では頑張っって売っていきいたいと考えてい

るところです。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 この割増しについて、これ、買ったほうが絶対得ですよ。得なんですけども、第一弾のときに、コミセンさ行ってきたかと言ったら、9時頃行ったからうんと並んでだった、何ぼ買って来たと言ったら、1万円だと、何で3万円買わねかったか、そんなに銭ねえもんと、こういうことだったんですね。要は割増しについてから、買えたら買ったほうが得だとみんな分かっているんですけども、なかなかその上限いっぱい買えないという人中にはいるということなんです。だから、東根市の50%の例も出して、100%というものもあったようなんですけども、そういうふうになると、金を持ってる人にだけ優位性が働くということになりますので、私は長井市のこの割増し率というのは適正かなと、ある意味思うんですよ。買いたいけれども、取りあえず今7万円出せないという人だっていっぱいいるということをお前提に考えますと、これ、何か工夫はないもんかなというふうに思うんですよ。もう当然、そういった背景などは担当部署のほうで検討されておりますので、そこら辺について、どういった検討なされて、こういう結果に落ち着いたのかお聞かせください。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 このたび、第一弾につきましては、6月議会の初日に提案をさせていただきました。その理由につきましては、5月に給付いたしました定額給付金、こちらをなるべく市内で使うお金に回していただくという考えから、早急に取り組むべきということで、6月中の販売をさせていただいたということでございます。議員おっしゃるように、買いたくても買えない方、確かにいらっしゃるのかとは思いますが、できるだけ買いやすいようにA券のつづりは1冊5,000円、B券は1冊1万円と

いうふうにしたつもりではあります。1冊当たりの枚数ですか、そこら辺の工夫もある程度考えてはみたんですけども、どうしても実際に使うところを想定すると、A券は1枚500円券のほうを使いやすいだろう、お年寄りがタクシー代を払うときにも1,000円単位ではちょっと難しいだろうというふうなことで、そのようなことをさせていただきました。買物のほう、B券につきましても、やはり食料品買うにしても1,000円券が妥当であろうということで、1,000円をつづりをつくらせていただいたというふうな経過でございまして、今回はなるべく買占めが発生しないようにということで、上限3万円とさせていただいたんですが、なかなかそれでもちょっと配慮が足りない部分はあるのかと思いますし、今回、第二弾発行するわけですけども、基本的には第一弾と同じ考えでやらせていただく予定です。いろいろご意見あると思いますが、私どももその辺が一番設定的にはいいのかなということで、今回、第二弾も上限7万円までというふうなことで考えさせていただいたところでした。よい案があれば、いろいろお聞かせいただければ幸いに存じます。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 例えば独居老人で生活困窮世帯で足もなくて買いにも行けないと。例えばそういう方に限って、100分の100で、5,000円で1万円の商品が買えるものを限定数で出すとか、第三弾を考えているのかどうかも含めて、これは政策的な問題だと思いますので、市長、お聞かせください。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 いろいろご提案いただきましてありがとうございます。私も蒲生議員おっしゃるように、いろいろな市民の心理とか、あと、高齢者の皆さんのお考え、あるいは子育て世代の方のお考えなども配慮して、プレミアム商品券やら、あるいは一律の商品券、考えなきやい

けないというふうに思ってますが、5月、6月あたりは、今回、東根市さんはかなり太っ腹で、大量に発行されたんですが、例えば隣のまちなんかですと、飲食関係で5割プレミアムだと。これが並んであつという間に売り切れたと。買えない人が続出して非常に不満が出たんですね。私どもは、赤間課長が答えたように、商工観光課だけじゃなくて、その部門の中でみんないろんな意見交換をして、ああいう案で落ち着いたわけですけども、2通りあって、プレミアムはちょっと低いんだけど、買いたい人はみんな買えるようにするのがいいのか、あるいはぜひ買いたいということでプレミアム率を高くするのがいいのか、ただし発行数は少ない。みんなが買えるわけじゃない。それはどれがいいかといった場合、中長期で考えたときに、やはりみんなが買えるように、そういったことを考えるのが、まず第一弾はいいだろうということで、今回、第一弾はしたわけですね。第二弾については、実はもう少し発行枚数は多かったですけども、やっぱり従来のプレミアムだけじゃなくて、一律に定額給付金みたいに商品券で送るというのも必要なんじゃないかと。それによって、地元で買物していただく、その場合はもう強制的にお届けするわけですから、申請も何も必要ないんですね。封書に入れて住民票の住所に基づいて簡易書留でほんと送るわけです。いらっしやらなかったら、何回も連絡取れなかったら、郵便局のほうで返ってくるというだけの話なんですね。ですから、そういうのもいいんじゃないかと。

したがって、この次やるときは、やっぱりプレミアム商品券も買いに行けない、来れない人もいますので、抽せんで、換金の仕方はいろいろあるんでしょうけども、買いたい人は抽せんで申し込んで、その場合のプレミアム率はどのぐらいにするかですけども、お年寄り用、あるいは子育て世帯用、一般の支えていただい

る人用とか、いろんなことも考えられますので、ぜひそこは、蒲生議員をはじめ、議員の皆様からいろいろご助言をいただいて、この次はそういう政策をつくるときに、ぜひ議会の意向も取り入れてやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。長くなってすみません。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 この項はあと1点で終わりですので、その後は休憩していただいて。

実は私、プレミアム商品券使いたいたいんですけど、あるところに行って話したら、うちは登録してませんと言うんですね。えっ、登録してないんですか。じゃあ、駄目だなと言ったら、ちょっとお待ちください、すぐ登録しますからと言って、10分もしないうちに登録しましたとなったんですけど、そんなに簡単に登録できるんですか、そういう実例があったもんですから、お聞かせください。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 ただいまの件は、推測なんですけども、商工会議所の会員のお店だったのかと思います。会員のお店ですと、多分電話一本ですぐ登録という形になると思いますので。というのは、なぜ登録していただくかという、換金するときに、振込先の登録も必要なもんですから、それが事前に分かっていたパターンかなと、今お伺いしたときに思いました。多分そのような理由だと思います。

○平 進介議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時15分といたします。

午後 0時09分 休憩

午後 1時15分 再開

○平 進介議長 休憩前に服し、午前に引き続き

会議を再開いたします。

それでは、議案第79号 令和2年度長井市一般会計補正予算第5号に関する質疑を続行いたします。

ご質疑ございませんか。

15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 1点だけ、14ページの9款消防費、4目防災費ですね。977万円ということなんですけども、ここにフェースシールドほか、非接触型体温計、卓上パーティション、段ボールベッド、パーティション等々ありますが、この設置について、総務課長に伺いますけれども、これは国の新しい避難所の設置基準、指針に基づくものと理解してよろしいですか。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 ただいまの蒲生議員の質問について、そのようなものを参考にしながら、本市におきましても、避難所の適切な設置に資するよとということ、このような品目等を乗せさせていただいたところがございます。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 コロナに関してはソーシャルディスタンスということで、避難所も体育館のようなところに、どつと詰め込むというわけにはいかなかったわけですよ。こういうふうには段ボールベッド640個とありますけれども、取りあえずは640人分の収容を目指す。目指すという言い方おかしいんですけども、取りあえず640人分をそろえて、しかし、長井市の避難所はトータル何人収容できる見込みになってるんでしょうか。640人だとちょっと総体的な避難所の設置基準というか、在り方については足りないような気がするんですけど、どうですか。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 全部の避難所における合計の人数、今ちょっと手元にありませんけども、ただ、考え方としましては、まずは、この交付

金につきましてはこれぐらいの数を整備させていただいて、あと、順次、ほかの備蓄物資と同じように少しずつ増やしていくような、そのような方針に基づいて今後整備を図っていくというふうな考えでございます。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 今回避難所を設置されたわけなんですけども、この基準に従って用意されたという理解でよろしいんですか。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 現時点ではまだ段ボールベッド等はありませんで、これからということになりますので、まずは、この交付金で計上させていただいて、そこから始まるというような感じで考えております。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 今回、長井市は本当に最小限度という言い方が適正かどうかなんですけども、本当にあんまり大きい被害にならなくて安堵しているところだと思います。53年ぶりに最上川が氾濫して大江町辺りは大変な被害を被っているわけなんですけど、決して人ごとではないと。53年前の羽越水害を思い出してみれば、やっぱり早急にこの避難所の適正な設置、運営ができるように、これからも国、県の財源を活用するのもいいと思いますけれども、自前でもできることもあれば、それもやっていただきたいものだというふうに思っておりますけれども、時間的な計画もあると思うんですよ。最終的にいつまでどの程度を整備するという計画になってますか。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 現時点では、特に段ボールベッド等につきましては、いろんな協定なんかも考えておまして、そういうものを含めまして、どれぐらいに整備していくかということは計画的にという段階でございますので、今この時点で何年までとかということとはございません。

申し訳ありません。よろしくお願ひしたいと思います。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 それは分かりますけど、どっと洪水とか浸水になって、避難所を具体的に運営しなきゃならなかったと仮定すれば、そんなにゆっくりもしてられないと思うんですよ。ぜひそれは急いで整備をしていただくようお願いしておきたいものだなというふうに思います。

市長にお伺ひいたしますが、ケミコン山形株式会社との防災協定結んでおられたと思いますが、そのところをちょっとお話しいただけませんか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ケミコン山形株式会社の体育館につきまして、特に長井工業高校、あるいは、河川沿い、堤防沿いの長井高校などが避難所になっているわけでございますけれども、長井北中も避難所になっておりますけれども、なかなか中央地区の方が対岸まで行くというのも厳しいときもあるだろうということから、あとは、公共施設等々では考えられないということから、ケミコン山形にご相談申し上げましたところ、快くお引受けいただいて、使わせていただくことで協定を結ばせていただいたということになりますけれども、蒲生議員おっしゃるように、例えばこのコロナ蔓延のときに、仮に、今回は水害でございましたけども、地震だつて何があるか分からない状況でございますので、早急に進めなければいけないんですけども、避難所もしかりでして、ソーシャルディスタンスを考えた場合、例えば1,000人収容できるところに、1,000人ということはないですけども、500人避難できるところに500人というわけにいかないわけですね。したがって、もっともっと民間のそういう施設でご協力いただければ、例えばTASなんかも一つだと思うんです

ね。ただ、堤防が決壊すれば水浸しにはなるんですが、建物の上のほうは安全でございますので、そういったことも含めて、避難場所の確保、このウィズコロナ時代ですね。

あとは、実際に段ボールベッドとパーティションですね、その試作品を見せていただいたんですが、一般的にもう導入している市町村も確かにあるんですね、西日本のほうなんか。あれですと、背が低くて、もうプライバシーが確保できない。あるいは、フェースガードなんかもありますけども、やっぱり常時それずっとしてられませんので、一般的なものだとは非常に危ないなと思ってます。今回の場合は、私どもの要請に合わせていろんな試作品を出していただいて、ようやく大体固まったところでございますので、今回は640人分ではございますけれども、金額的にも抑えることができましたので、ご協力いただけるということでございましたので、まずは今回の補正と、あとは、できますれば、年度内にもう一回ぐらい補正をさせていただいて、当面1,000個から2,000個ぐらい、あと、どういうふうに配置するかも含めて、併せて今ご質問いただきました民間のそういった施設などにもご協力いただきながら、万全を期すようにしてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○平 進介議長 15番、蒲生光男議員。

○15番 蒲生光男議員 ケミコン山形さんとの協定で大変よかったなというふうに思ってるんですけども、例えばパーティション、段ボールベッドとかというものは、これ、ケミコン山形さんの体育館を使用する際に、そういう備品はそちらに置いていただくようなことになるんでしょうか。それとも、どこかに集中管理をして、そこから運搬して設営するみたいな格好になるんですかね。それはどちらなんですか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ケミコン山形さんとの協定では、

非常時に使わせていただくということでございますので、そこに備蓄をさせていただいたり、あとは、倉庫として置かせてもらうというのは、協定の中には入っておりませんので、協議して、もしかしたらある程度受け入れていただけるかもしれませんが、基本的には備蓄の倉庫なり、そういった資材等々については、別途場所を確保しなきゃいけないと思ってますが、例えばですが、これは来年ですが、庁舎が完成して、あちらに移った場合、旧市役所を使用する場合は、事務所としてはすぐできるんですが、例えば地元の公民館として一部使ってもらおうとかいった場合は、もう一回建築確認を全部取り直さなきゃいけないですね。そうすると、当然お金も相当かかるものですから、まず、当面は、旧市役所の中の一角にそういった備蓄の場所を確保できるんじゃないかなというふうに思っているところでございますが、そういったことも併せて、ちょっと計画づくりのほうが遅れておりますので、早急にそういったものを検討して、対応できるように努力したいというふうに思います。

○平 進介議長 ほかにございませんか。

13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 大分項目ごとにほかの議員の方も質問されましたので、絞って3点。

まず、1つは成人式。先ほどほかの議員からも質問があったわけですが、まず、284人の対象者について、全員会場外からのオンラインでということを決められたとお聞きをしたわけで、マスコミ等でも大分、全国初のオンライン成人式という取上げ方をされているということでもあります。私ども議会としては、成人式の在り方、あと、長井マラソンの在り方についても再検討、見直し等も含めて申入れをさせていただいたわけでありまして、その結果、成人式については8月15日という予定どおりの日に配信をしながらということだそうでありますので、これ

については、委託料114万円、あと、消耗品等102万6,000円等々の経費を交付金の中から充てているというふうなことになるわけですが、そもそも成人式は議会として再考したらいいんでねえかということから申しますと、オンライン成人式に至った経過について再度、教育長に説明をいただければありがたいです。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 この成人式の持ち方については、内容については、教育委員会がまず考えていくというふうなことの立場からお話をさせていただきます。

先日の全員協議会でもお話ししたとおりですけども、これはあくまでも教育委員会の立場としての成人式の意義ということでお話をさせていただきます。様々な意見もありましたし、それから、議会からもそのような意見を頂戴したところですけども、私たち教育委員会の立場としては、やはりこの8月15日の成人の日はずらしようがないだろうと思います。つまり、その今のコロナの状況というものを踏まえた式の在り方、それから迎え方というのを、私は伝えたいと思って、この間もお話ししたところです。これについては、子供たちも帰ってきたいとか、それから、オンラインでなくて、やっぱり会いたいんだというお話もありました。これも先日お話ししたとおりですけども、会うという集いと、それから式を迎えるということは、まず一つ、大きく分けて考えたい。市としては、やはりこの成人式を、今このような予測不能な時代にあって、これから理不尽なことたくさんあると思うんです。それをきちっと私たちも、それから新成人も一緒に考えていく、そういう場にしたいとこの間お話ししたとおりです。そのようなことで、教育委員会としては捉えているところです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 決定をされたというこ

とでありますので、8月の式については成功裏にと祈っておりますけども、今、教育長からあった、先日も説明をいただいたし、今も説明をいただいた部分は、新しい暮らし向きというか、生活様式を探りながらということでは、いろんな場面が出てくるんだべなというふうに思いますが、必ずしも8月15日に成人式執り行わんなねということではないわけで、これはほかの市町村なり、市民の方々もいろんな思いがあって、これは決まったことで、今日の夕方も実行委員会など、予定されているようですので、地元の成人された方、そして、市外の成人者にも、私らもお祝いを申し上げたいと思いますけども、この間の説明から申しますと、式そのものは縮小して来賓だけで行うということなので、正式な成人式と捉えていいのか、例えば若い人が実行委員会で、コロナ禍が収まった時期を見て、同級生なりと集まりたいというときは、これは自由意思なわけですけど、時期の判断は必要だべなと。とプラス、行政としても、成人式のような形式を再度取るのか、これで行政としては、教育委員会としては、成人式を一旦終わったとするのか。この間、説明いただいたときには再考するようなこともあったやに聞こえたので、そこをもう一回確認をしたいなと思います。じゃあ、市長から。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大変申し訳ございません。教育長のほうからは、先ほど考え方について、あと、経過について若干あったとおりでございます。私のほうに申入れということで、議会の皆様から頂戴しましたので、私のほうからお答えをさせていただきます。と思います。

まず、6月市議会のときに蒲生議員からも、まずは、式典はいいんだけど、集いみたいなものは慎重にすべきじゃないかというご提言をいただきました。全くそのとおりでございまして、私どもも、6月の19日にいわゆる移動の解

除、自粛規制を解除するということから、まずは式典はできるだろうと。あとは、集いについては、実行委員会の皆様のご判断ということで参りました。それで、その後、7月に入りましてから、今回の前兆があって、今大変な状況になっているわけですね。白鷹町さんもその6月の時点ではするという予定だったんですが、延期となさいました。これは考え方がいろいろあるんですけども、私個人の考え方としては、延期したとしても、年度内は無理だろうと。ということは、式典もできないぐらいの感染状況であるとすれば、今回のような状況で3か月、6か月先に開催できるとはとても、私の考えとしては思えないと。それぐらいパンデミックで先々不透明で不確実だと。この間の7月22日の市報の際にも、多分、小関議員もご覧になったと思うんですが、市民の皆様へということで文書で書かせていただいたとおりで、その後のいわゆる正式なという言い方もおかしいんですけども、式典、あるいは集いについては、感染が収束して、できるような状況のときに、まず、集いは当然、新成人の皆さんはしたいとおっしゃってますので、それは私どもも応援しようと、段取りもぜひ手伝わせてもらいたいと。式典も必要だったらばさせていただきたいというふうなことを書いております。

したがって、これ、考え方なんです。やはり私どもとしては、13市は13市で横並び、ほかのところも延期したらうちも延期するというのが普通なんですけども、私は新成人に対して、本当にそれでいいのかと。私自身も延期したほうがいいのかという判断だったら、これは延期をしますけども、私は延期しても年度内にできないだろうと。したがって、令和3年度になってから令和2年度の皆様の成人式の式典をやるということは果たして、私ども長井市として新成人に顔向けできるのかと。ウィズコロナだといって、新しい生活様式に基づいた、そういうコロ

ナの時代を生き抜くためにそんな取組をしようという我々行政が国も含めて言っている、自分たちがですよ。いや、危ないから、じゃあ、それはほかのところも右倣えしよう。右倣えして、年度内にできなかつたら、じゃあ、本当これは新成人に顔向けできないという判断で、私がそういうふうに考えて申し上げたところ、教育委員会も教育長はじめご同意いただき、あるいは、副市長はじめ、幹部の職員もそれだったら、まずはできる範囲でできるやり方で従来どおりやっつけようということ、今回オンラインの成人式を行うことにしたところでございます。

なお、申入れいただきました長井マラソンについては、これ、実行委員会がありますので、私個人で実行委員会の意見を無視して決めるということは、今までもこれからもしてはいけないものだと思っておりますので、申入れは申入れとしてお伺いしますが、申入れの際に申し上げましたとおりで、これは実行委員会を決めさせていただきますと。8月下旬から9月上旬で予定しておりますので、できれば8月下旬の早い時期に開催して、皆さんの意見を聞いて決定していくべきだというふうに申し上げたところでございます。

したがって、成人式についても、それは議会としての考え方もおありでしょうし、議会が一致したといっても、一人一人考え方違うのかなというふうに思っております。でも、ウェブ会議、ウェブ成人式そのものは決してリスクはないわけですね。これも自由参加ですから、参加できる人たちでいいと。なおかつ、そのための経費、予算案を出させていただいてますけども、それは国が臨時地方交付金という形で、ウィズコロナに対応するための経費として交付いただいたものですから、それに沿った予算の使い方ということで、私は理解いただけるのかなと思っております。今回は議

長さんだけをお招きして、あと、県会議員と私も幹部職員、最低限で文化会館のほうはやっていくというふうに思ってます。

なお、今の段階でございますけれども、その成人式の前に、ずっと子供たちは、県外にいる方々は長井市に戻ってこれてないんですよ。ですから、長井市の風景やら、町がどう変わったか、あと、皆さん知らないうちにどんどん変わってきている長井市のいいところとか、あと、今回のウェブ会議、オンラインの成人式ですけども、市民の皆様やら、あるいは商店街とか、いろんな方々から応援メッセージをいただくようなビデオレターをつくって、そして、新成人が本当に不安な中で、あるいは苦しい思いをされて生活されている方もいらっしゃると思いますので、応援をしようというふうに考えておりますので、何とぞ、議会からは申入れをいただいたんですが、そんなことでご理解をいただきたいというふうに思うところでございます。よろしくお願いたします。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 今、市長の考え方というか、長井市として、成人式の捉え方についてお聞きをして、私は反対をするというふうなことではないし、また、議会としても申入れをさせていただいて、熟慮されての結論ということですので、これはお祝いを申し上げたいわけですが、今、市長からあったように、お知らせの文章で、こうなったんだどいっても伝わってないなということがありますので、これも残念ながら、あの文章見たらずっとした文章で、めり張りが無いというか、字の大事なところは大きくするとか、もうちょっと工夫しないと、市民に伝わんねかったんでねえかなというふうに、これは私の印象です。

なので、ぜひ成功裏に成人式が行われるように期待をしたいんですが、これは予算のことでお聞きしますので、課長でもよろしいんですが、

消耗品については、成人者のお祝い品とか、いろいろ式を運営するに当たっての備品等、あると思います。102万6,000円の中身について、説明をいただければありがたいです。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 小関議員のご質問にお答えいたします。

今回、この消耗品で計上させていただきました102万6,000円、こちらについては、成人式用ではなくて、文教施設の消毒液等の消耗品でございますので、こちらは成人式は全然関係ない経費となっております。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 了解しました。

じゃあ、もう1件、課長に伺います。成人式について、さっき内谷議員からもいろいろこまいところで質問があったわけですが、284人中、市外におられる成人式の対象者についてはどのぐらいの人数か、もし分かればですが。今、市長からもあったように、私の家族や親戚やも含めてですが、市外のいる人も、市内の親戚、親、じいちゃん、ばあちゃんもずっと冬から我慢しながら暮らしてて、夏休み、お盆もこれから過ぎさんなねということもあります。二十歳の学生、あと就職して働いている方も、284人中、市外にいられてる方、市外に出ておられる方の割合というのはどのぐらいなのかなということ、一つ目安にさせていただきたいので、教えていただきたい。

○平 進介議長 佐藤 久文化生涯学習課長。

○佐藤 久文化生涯学習課長 お答え申し上げます。

おおむね4割程度、市外のほうにということになってございます。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 了解しました。

高校卒業して、意外と6割の方は市内に残っておられると。学生で住民票を移していない人

も恐らくいるのかなということも考えると、やっぱり半分以上は市外に出て暮らしてるんだべなと思うわけで、そういう方にも、さっき市長からあったように、今現在の長井市の様子や励ましの言葉などもライブ配信をしていただくような編集なり企画を、ちょっと短期間になってしまったわけですが、ぜひ頑張っていたきたいなと思います。

あと、もう一つですが、コミュニティセンターや児童センターの網戸設置なども、これもコロナ対策については、必要な対応を取っていただいたなと思いますけれども、残念ながら児童センターに今まで網戸もなかったのかということも、逆に感じたわけです。あと、もう一つは、児童センターの父母の会の代表者の集まりに去年あたり出てみますと、子供が遊ぶような広い部屋については、まだ空調が整っていないところがあるということもお聞きしたわけですが、コミセンの大きな部屋には今回空調が入ることです。児童センターでは、網戸は大変結構なんですけど、換気なり暑さ対策も含めて、空調設備なんかについては、全体の予算の枠もあるわけなので、何もかもというわけにはいきませんけれども、要望なり、希望なりが出なかったのかどうか、子育て推進課長にお聞きをします。

○平 進介議長 加藤潤子子育て推進課長。

○加藤潤子子育て推進課長 私のほうから、今のご質問にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり、網戸につきましては、昨年から父母の会等で要望等、上がっておった事項でございますので、このたびのコロナの関連の事業ということで、購入させていただくことができ、大変よかったなというふうに思っているところです。あわせまして、遊戯室の空調なんですけれども、ここ何年か、やはり要望等上がってきているのは実際ございます。ただ、工事費というのが予算の対象になっていなかったということと、あと、現場の先生方のお話も

聞きますと、あまり遊戯室にクーラーを入れまして密集になるよりは、個々の部屋でお昼寝等をさせたいというふうな意見もございましたので、このような対応になっておるところです。

○平 進介議長 13番、小関秀一議員。

○13番 小関秀一議員 今の課長の回答で了解ですが、お昼寝等も含めて、子供らが健やかに過ごせる環境づくりには、三密にも当然気をつけていがんねわけだけども、去年おとしあたりから物すごい暑さが続いているわけなんで、ぜひその辺の対策も課長なりが把握をしていたいて、今後の対策、対応に、これはコロナばかりでなくて、お願いをしたいもんだなというふうに思います。

○平 進介議長 ほかにございませんか。

11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 ただいまたくさん多くの皆さんから質問あったわけでございますけれども、私のほうから3事業について、ちょっと少し深くお聞きしたいなというふうに思っているところです。簡単でございますので、簡単に答えてもらっても結構でございますので。

まず初めにですが、総務参事にお尋ねしたいと思います。9ページですか。2款1項6目企画費ということで、その自粛者応援事業について先ほどなたかもご質問されておったようですけれども、今回初めて私聞いたのは、2,000円以上買った人に対して1,000円の送料を補助するということでございます。さらに1,000人に限定としているところでございます。買う場所が1か所に限定されているということと、また、1,000人というのは多いのか少ないかちょっと分かんないんですけども、仮にそれを上回った場合、ぜひ何とかこれは対応していただきたいというのが私の願いなんですけれども、せめて多くの人に買って送っていただければなというふうに思っているところでございます。これはこのぐらい売れば大したもんだということ

なんでしょうけども、その辺について、どのぐらいを見てるのか、まずお聞きしたいなと思います。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 お答えいたします。

1,000人の対象者の算出でございますが、あと、2,000円という条件でございますが、今回のゴールデンウィークに行いました帰省の自粛の産品を送るときについても一応2,000円、もしくは3,000円のものを送ったわけでございます。それで、仮になんですけれども、500円とか600円のものを送るに送料が1,000円程度かかりますので、やっぱりより多く送っていただきたいと。地場産業の振興の意味もございますので、2,000円という設定をさせていただいたところでございます。あと、数量の1,000人でございますが、今回、一応お盆の期間中ということもありまして、8月20日までということで想定をしております。詳しく統計を取っているわけではないのですが、道の駅川のみなと長井の送付状況から、あったとしても数百程度ではないかという情報がありました。それも1,000に限りなく近い数百ではなくて、あったとしても、二、三百とか、三、四百、例年だとそういった程度ではないかということで、このたび、こういったことで帰省をされていない方もたくさんいらっしゃいますので、多く見積もったとしても1,000まではいかないのではないかと、ある程度の聞き取りも行いまして、1,000という数量を設定させていただいたものでございました。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 分かりました。

全くそのとおりのかなと思うんですけども、やはり地場産業振興というんですか、地域の産品をどんどん買ってもらうという意味では、コマーシャルというのは大変重要だと思うわけでございます。行ってみたらやってたという話

ではなくて、やっぱりぜひそういう周知徹底を図っていただいて、本当にみんな買ってもらいたいというようなことをしていただきたいと思います。

それと併せて、もちろんプレミアム商品券も地場産であれば使えるわけでございますよね。その辺もちょっと併せて、本当にこれは地場産業の振興には格好の機会だと思いますので、ぜひ決意も込めて答えていただけますか。

○平 進介議長 答弁者はどなたですか。

○11番 赤間泰広議員 総務参事。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 お答えいたします。

明日なんですけども、あやめR e P oの8月1日号を全戸に市報と同時に配布いたします。その中にも取り上げておりますし、あと、市のホームページ、あと、先日の協議会でも申し上げましたが、ゴールデンウィーク期間中に行いました帰省自粛者の地場産品の送付の企画と、今回の送料支援も併せまして、別な各戸配布のチラシを作りまして、そちらについても併せてお配りして周知をしていきたいというふうに考えておりますので、ぜひこれを機会に市民の方々に地場産品を買っていただいて、当然、議員から今ご紹介ありましたように、プレミアム商品券は道の駅でも当然使えますので、どんどん使っていただきまして、地場産業の振興とともに、帰省できなかった方に多くの品物を送っていただきたいというふうに考えてございます。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 本当にご期待申し上げます。

続きまして、2番目の質問をさせていただきたいと思います。生活困窮者食の支援事業について、これは福祉あんしん課長にお尋ねしたいと思います。先日、若干説明いただいたわけでございますけれども、これは予定として70世帯に60キロの米を支援するという大変よい事業で

あるというふうに評価させていただきたいと思
います。これですと、60キロですから70俵で
4,200キロの米が動くというようなことでござ
いますけれども、この仕入先についてはどこに
なってるかお尋ねしたいと思います。私が言
いたいの、ある程度まちの米屋さんとかも使
っただけならばというふうに思って、公平に
扱うという意味でちょっとお尋ねしたいと思
います。よろしくお願ひします。

○平 進介議長 梅津義徳福祉あんしん課長。

○梅津義徳福祉あんしん課長 お答えをさせて
いただきます。

お米を準備いただく業者さんにつきましては、
今情報収集をしております、条件としまして、
長井市産米を私どもでお願いをしたときに準備
いただける業者さん、それから、基準額が決ま
っておりますので、その金額で納めていただ
ける業者さんというようなことで、ただいま複
数の業者さんの情報をいただいているところで
ございまして、まだ特定に至っている段階で
はございません。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 ぜひ市内にもたくさん
米屋さんがあるわけですので、公平に
扱っていただければというふうに思ひます。

最後の事業について質問させていただきたい
と思ひます。先ほどからも多くの議員が質問
されてますプレミアム商品券についてのことで
ございまして。産業参事にもご発言いただ
きたいと思ひますが、よろしいですか。今回、
A券とB券があって、宿泊業、飲食店用が7,
750冊売れ残ったということございまして。こ
れは3,875万円売れ残ったということござ
いまして。これは長井市の地域産業活性化とい
うか、地場の産業、商店、飲食店を元気づ
けるには本当に残念だというふうにしか、私
は言いようがないんです。これは別に責め
てるわけじゃないんですけれども、市民の感
情がこういうことだった

ということございまして、はっきり言うと、
市民の方から受け入れられなかったのかな
というふうに思ひます。その辺のことをど
のようにご理解されてるのか、お願ひ
します。

○平 進介議長 藁谷 尊産業参事。

○藁谷 尊産業参事 基本的に今回の施策
自体は間違っていないというふうに思
っております。ただ、昨今まで、やはり
コロナという部分で、市民の方々も非
常に萎縮しているというか、自粛に
ついて我々が思っているより、も
っと厳しく思われていらっしやっ
たのかなというふうに思
っております。今も第二波と言
われておりますけれども、市長も
皆様も申し上げておりますけ
ども、ウィズコロナ、新生活様
式というような中では、やはり
コロナ禍であってもそういう
ようなものは進めていかな
くちゃならないというふう
に感じておりますので、今
回売れ残ったということでは
あるんですけども、しっかりと
皆さんには使っていただく
ように、PRを重ねながら、
市の経済の活性化に資する
ように使っていただきたい
というふうに考えてお
ります。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 本当に残念と言
うしかいんですけれども、間
違いじゃなかったという
のは私も分かってお
ります。それはみんな
同じと思ひますけ
ども、さっきの商
工観光課長回答
では36%しか
売れなかったとい
うことござい
まして。あと残り
の64%は残
ったと。選挙
であれば、当然
、36%では
もう全然話にな
ないわけござ
いまして、こ
れを今後やっ
ぱり市民の方
にもっと理解
してもら
うということ
も大切だと思
ひます。さら
に、どなたか
の質問にも
あったと思
ひますけ
ども、手間
がかかり
過ぎるとい
うことな
のかなと。換
金するとき
面倒くさい
というか。そ
ういうこと
もあるん
だと思ひ
ます。あとは
、市民の方
からのお話
ですと、蒲
生議員が
さっき言
ってまし
たとおり、
私の行
きたい
お店が
ここに
書いて
なかつ
たとい

うようなお話があったわけですので、ぜひもっともっと広く使えるお店を登録していただければというふうに思います。とにかく皆さん頑張っているというの分かるんですけども、だけど、その頑張りで36%だったということでございますので、長井市の産業にプラスになることとございますので、やはり100%売れるように、力を入れて頑張りたいなというふうに思いますので、その辺のようにお考えになっているか、商工観光課長、お願いします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 プレミアム商品券A券につきまして、私のほうから考え方を話しさせていただきます。

まず、売れ残りが出たということにつきましては、やはり今回の売り方の方法にも原因は一つあったのかなと思います。それは1世帯当たり3万円までということで、券1枚で買わなければならない。そうした場合に、独り暮らしの方以外のご家族がいる方は、どうしても飲食でなくて、小売、サービスのほうを余計に買いたいという傾向があったのかなと。そうしますと、その分、A券に回る金額がやっぱり少なくなったのかなと考えております。もちろん3万円分全てA券をお買いになった方も実際にはいらっしゃいます。そういうことですので、もう少し売れる機会を、売れる枚数を増やしたいということもありまして、今回、第二弾につきましては、1世帯当たり7万円までとさせていただきますので、そのうち、小売、サービス業を5万円まで、残り2万円分をA券に向けられるという状況に改善させていただいたところでございます。なお、換金の方法は、一回登録していただきますと、毎週換金作業をしておりますので、ぜひその辺ももう少しPRしなければならないかなと思います。

あと、もう1点、付け加えさせていただきますと、ウィズコロナということで、新しい生活様式でもちゃんとお客様を安全に安心してお迎えできる店舗の体制を取るべく、別事業で6月補正させていただきましたが、まち歩き安心サポートシステム、こちらのほうも同時進行しております。それも併せて、なるべく今の新しい生活様式に合う基準でお店の設備を整えていただきまして、そのための補助金も準備しておりますので、それら総合的に基盤整備をいたしまして、A券のほうもいっぱい使っていただけるように宣伝していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 ご期待申し上げます。

私、本当に心配性でいつも思うんですけども、今回この残ったということに関して、物すごい何かショックだったんですね、地域の経済にあんまりプラスになんなかったのかなと。仮の話で大変恐縮なんですけども、売れ残った場合、事業費として国からの補助金は返金しなきゃなんないわけですか。この辺のことが私、分からないもんで、総務参事、的確に答えていただけるのでしょうか、よろしく願いします。

○平 進介議長 竹田利弘総務参事。

○竹田利弘総務参事 交付金の仕組みについてご説明申し上げますが、さきの全員協議会でも申し上げたとおり、今回の予算化につきましては、単独の経費を入れて、交付金の額よりも多く予算化させていただいております。それで、例えば今回のプレミアム商品券で多少いかなかった場合は、その単独の経費で予算措置している部分につきまして充当していくということで、交付金の額は全額使い切りしたいというふうに考えてございます。

○平 進介議長 11番、赤間泰広議員。

○11番 赤間泰広議員 分かりました。

とにかく皆さん、このコロナ対策で本当に頑

張ってらっしゃるお姿拝見しておりますので、
頑張ってくださいと私からエールを送らせてい
ただいて、質問を終わりたいと思います。よろ
しくお願いします。

午後 2時11分 閉会

○平 進介議長 ほかにございませんか。

会議録署名議員

(「なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 ほかに質疑もないので、質疑を
終結いたします。

議長 平 進 介

それでは、議案第79号について、討論を行
います。ご意見ございませんか。

4 番 鈴 木 裕

(「なし」と呼ぶ者あり)

5 番 竹 田 陽 一

○平 進介議長 ご意見もないので、討論を終
結し、採決いたします。

6 番 金 子 豊 美

議案第79号は、原案のとおり決するに賛成の
議員の起立を求めます。

(起立全員)

○平 進介議長 起立全員であります。

よって、議案第79号は、原案のとおり決定
いたしました。

最後にお諮りいたします。

本臨時会において議決されました議案の中
で、条項、字句、数字、その他整理を要するもの
については、会議規則第43条の規定により、その
整理を議長に一任願いたいと思いますが、これ
にご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○平 進介議長 ご異議なしと認めます。

よって、整理を要するものについては、その
整理を議長に一任することに決定いたしました。

閉 会

○平 進介議長 これをもって令和2年7月長井
市議会臨時会を閉会いたします。ご協力、誠に
ありがとうございました。